

第六十四回帝國議會
衆議院

恩給法中改正法律案委員會會議錄(速記)第五回

付託議案

恩給法中改正法律案(政府提出)

會 議

昭和八年二月二十七日(月曜日)午後一時五十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 津崎 尙武君

理事喜多 孝治君 理事宮澤 裕君

理事松田 正一君 理事山根 儀重君

小林 銚君 八角 三郎君

匹田 銳吉君 吉田 靱明君

江藤源九郎君 林 路一君

坂東幸太郎君 横山金太郎君

添田敬一郎君 後藤 亮一君

同日委員牧野賤男君辭任ニ付其ノ補闕トシテ小林銚君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席政府委員左ノ如シ

内閣恩給局長 樋貝 詮三君

海軍中將 寺島 健君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

陸軍歩兵大佐 中井良太郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

恩給法中改正法律案(政府提出)

○津崎委員長 只今カラ開會致シマス

○林委員 前回ノ本會ニ於キマシテ、恩給

第六類第二十號 恩給法中改正法律案委員會會議錄 第五回 昭和八年二月二十七日

局長ノ御答辯ニ依リマスルト、恩給法ノ改

正ニ付テ種々ノ請願ガアルガ、其中デ今回

ノ改正デ考慮ヲセナカタモノハ、即チ屯

田兵ノ恩給ノ問題デアアル、斯ウ云フコトデ

アリマス、ソコデ私ハ此屯田兵ノ恩給問題

ハ十數年ニ互ッテノ請願或ハ陳情トシテ屢

此衆議院ニ現レテ居ルコトハ、申上ゲルマ

デモナイノデス、尙ホ數年前ヨリ致シマシ

テ此屯田兵中現役ニ準ズル勤務ヲ致シタ

者、即チ豫備役期間デアッタ者ニシテ、現役

ニ準ズベキ勤務ニ服シタ者ハ、恩給法ノ年

限ニ通算スルコトノ法律ノ改正案ガ、議員

提出トナッテ數回衆議院ヲ通過致シテ居リ

マス、此法律改正ニ付テハ其時々政府ハ御

反對デアッタノデアリマスガ、其反對理由

ト、ソレカラ提出者ノ提案理由トハ大分相

違致シテ居ルノデアッテ、未ダ其政府ノ反

對理由ノ正當ナルコトヲ吾々ハ肯定ヲ致シ

テ居ラスノデアリマス、今回ノ恩給法ノ改

正ニ付テ此問題ダケガ取殘サレタト云フコ

トデアアルナラバ、此機會ニ於テ此屯田兵ノ

問題ヲ考慮シ得ザリシ理由ヲ明確ニシテ置

ク必要ガアルト思ヒマス、隨テ委員諸君ニ

ハ甚ダ御氣ノ毒デアリマスケレドモ、此間

題ニ付テ十分ノ了解致スマデ當局ノ御意見ヲ

承リタイノデアリマシテ、暫ク時間ヲ拜借

致スコトヲ御許ヲ得タイト思ヒマス

先ヅ私ノ政府當局ニ御尋致シタイコト

ハ、屯田兵ノ恩給問題ト言ヘバ、色々ナ内容

ヲ持ッテ出テ居ル、數種ノ内容ヲ持ッ所ノ請

願ガアリ、其請願ノ中ニハ恩給法ノ性質カ

ラ全然本質的ニ認メラレナイモノモアリマ

ス、併ナガラ毎回殆ド衆議院ヲ通過シテ居

リマス所ノ豫備役期間ノ恩給年限通算ノ分

ニ該當シマス屯田兵等ノ請願ハ、必シモ恩

給法ノ本質カラ考ヘテ見テ承認出來ナイモ

ノデハナカラウト思フノデアリマス、是ニ

於テ私ハ他ノ委員會ニ於テモ申述ベタコト

デアリマスガ、更ニ當委員會ニ於ケル委員

諸君ノ御判斷ヲ願フ上カラモ、モウ一度重

ネテ此豫備役期間ヲ恩給年限ニ通算シテ貰

ヒタイト云フ、屯田兵ノ勤務ノ狀況ハドウ

デアッタカト云フコトヲ、玆ニ繰返シテ申上

ゲルコトヲ御許ヲ願ヒタイノデアリマス

抑、北海道ノ屯田兵制ハ、明治八年ニ制

定セラレ、明治三十七年九月ニ廢止セラレ

タモノデアリマス、此三十年ノ長イ間、屯

田兵ハ一面ニ於テハ北門警備ノ任ニ當リ軍

務ニ服シタノデアリマス、又他ノ一面ニ於

キマシテハ、北海道開拓ノ先驅トナリマシ

テ、無人ノ境ノ榛莽荆棘ヲ切開キマシテ皇

軍ニ從軍致シタノデアリマス、即チ兵農兼

務ノ本分ヲ盡シマシテ、國家ニ對シマシテ

ハ多大ノ貢獻ヲ爲シタノミナラズ、日清、

日露ノ兩役ニハ從軍ヲ致シマシテ、赫々タ

ル勲功ヲ立テタモノデアリマス、元屯田兵

ハ斯様ナ歴史ヲ有シマスルニ拘ラズ、僅カ

ナル食費其他ノ給與ヲ與ヘラレマシタ爲

ニ、特別ノ勤務ニ服シタ者、例ヘバ靴工縫

工、是等ハ極メテ樂ナ勤務デアッタノデア

リマスルガ、斯様ナ勤務ニ服シマシタ者

ハ、大正六年ノ恩給法ノ改正ノ際ニ、其勤

務年限ヲ恩給年限ニ通算セラル、コトニ

ナッタノデアリマス、所ガ一般ノ屯田兵ノ服

務期間ハ恩給ニハ加算セラレナカタノデ

アリマス、ソコデ一般ノ屯田兵ハ其現役ノ

服務期間ヲ恩給年限ニ加算シテ貰ヒタイト

云フ請願ヲ屢々衆議院ニ提出致シマシタ、又

同時ニ豫備役期間ニアッテ、サウシテ現役ト

同様ノ勤務ニ服サシメラレタ者モ、其豫備役期間ヲ恩給年限ニ通算シテ貰ヒタイト云フコトノ請願ガ屢、現レタノデアリマス、而シテ大正十二年第四十六議會ニ於キマシテ、一般恩給法ノ大改正ガ行ハレマシタ際ニ、政府ノ原案ニ依リマスルト云フト屯田兵ニ對シテハ大正六年ノ改正ノ儘デアル、即チ縫工、靴工ト云フヤウナモノ、或ハ屯田兵村監視ト云フヤウナモノ、是等ノ極メテ樂ナ勤務ニ服シタ者ガ其服務期間ヲ恩給ノ年限ニ通算セラレルコトニナリマシタ其儘デアツテ、他ノ一般屯田兵ニ對シテハ此大改正ノ際モ何等ノ考慮ヲ拂ハレナカッタノデアリマス、是ガ爲ニ衆議院ニ於キマシテハ、屯田兵ノ現役期間ヲ恩給年限ニ通算スルコトノ適當ナルコトヲ認メラレテ、即チ現行法ニ示サレテアリマスル如ク、第三百三條ノ屯田兵ノ現役期間ヲ恩給年限ニ通算スルコトノ修正ガ行ハレタノデアリマス、當時此修正ヲ致シマスル際ニ、同時ニ現役ト同様ノ勤務ニ服シタ豫備役期間ヲモ此年限ニ通算スルノデナケレバ、公平デナイト云フ意見カラシテ、實ハ此修正ヲ行ヒマスル際ニ、豫備役期間ノ通算ヲモ提案スルノ意見ガ起ツタノデアリマス、然ルニ當時政府ノ同意ガナカッタ爲ニ、其修正動議ハ成立ス

ルニ至ラナカッタノデ、單ニ現役期間ヲ恩給年限ニ通算スルノ修正デ、此第三百三條ガ出來タノデアリマス、是ガ爲ニ現役期間ハ恩給年限ニ通算スルコトニナッタノデアリマスルガ、依然トシテ取殘サレマシタノハ此豫備役期間ノ屯田兵ノ問題デアリマス

ソコデ私ハ此場合屯田兵ノ豫備役期間ヲ何故ニ恩給年限ニ加算シナケレバナラナイカト云フコトヲ申上ゲテ見タイト思ヒマス、屯田兵ノ豫備役ハ、名ハ豫備役デアリマスルケレドモ、實ハ現役ト何等異ル所ガナイノデアリマス、現役同様ニ軍務ニ服シタノデアリマス、一般師團ニ於ケル所ノ豫備役トハ全然異ツテ居ルノデアリマス、師團ノ豫備役ハ現役ガ終リマスト直チニ歸郷致シマスルケレドモ、屯田兵ノ豫備役ハ在郷其儘デアリマシテ、軍務ニ服シマス故ニ、別段召集スル必要ガナイカラ、三年間常ニ現役同様ニ取扱ハレテ居ッタノデアリマス、爾來屯田兵ハ兵制制定ノ當初ノ明治八年カラ明治二十三年マデノ十六年間ハ、唯單ニ屯田兵服役ト稱シマシテ、現役トカ豫備役トカ云フ役種ノ區別ハナカッタノデアリマス、明治二十三年ニ至リマシテ屯田兵ノ條令ヲ改正致シマシテ、現役並ニ豫備役ト云フ役種別ヲ設ケラレタノデアリマス、此改正ノ理由ハ主ト致シマシテ、從來ノ如クニシテ置クナラバ、給與ヲ與ヘナケレバナラナイカラ、豫備役ト云フ名稱ニシテ、給與ヲ無クスルト云フ手段、即チ經費節減ニ過ギナカッタノデアリマス、斯ノ如ク致シマシテ豫備役ニナッタ者ハ、給與ハ廢セラレマシタケレドモ、勤務ハ矢張現役ト同様デ、現役滿期後引續イテ常備平時編成條例ニ基キマシテ、現役ト共ニ現役大隊ニ依然編入セラレテ居ッタノデアリマス、其寢起ノ定期モ亦一般ノ軍隊及屯田兵服務規程ニ依リマシテ、現役同様ニ服務セシメラレテ居ッタノデアリマス、又定期演習、義務演習、屯田兵給與令ニ依ル諸勤務ノ外ニ、毎年軍事並ニ拓地開墾ニ服シマシテ、其他身上ニ關シマスコトハ一切現役同様所屬現役隊長ノ指揮下ニ屬シテ居ッタコトハ、屯田兵ニ關スル規定ニ依ツテ明白ナノデアリマス、以上ノ事柄ハ事實デアリマスルコトハ、當時ノ屯田兵ノ隊長並ニ關係將校ノ證明書ニ依ツテモ明デアリマス、其證明書ハ一々此處デ申上ゲマセヌガ、當時ノ陸軍歩兵中佐柄内元吉氏、或ハ元第七師團副官デアッタ陸軍歩兵中佐大塚嘉輝氏、又陸軍歩兵大佐野崎貞次氏、陸軍少將渡邊水哉氏、後ノ東部都督參謀長ニナラレマシタ所ノ故人陸軍大將男爵淺

田信興氏ハ、皆以上私が申述べマシタ同一ノ趣旨ニ於テ、是等ノ屯田兵ノ豫備役期間ハ現役ト同様デアッタト云フコトヲ證明シテ居ラレルノデアリマス、要スルニ是等ノ人達ノ證明書或ハ認定書ニ依ッテ見マシテモ、私ガ申上ゲマシタ所ノ此屯田兵ノ豫備役期間ハ、事實ニ於テ現役ト何等異ラナカッタト云フコトガ立證セラレルノデアリマス、屯田兵ノ豫備役ハ實際ニ於テ現役同様ノ勤務ニ服シタモノデアリマスルガ、而モ恩給ニ浴スルコトガ出來ナイノデアリマス、其結果ト致シマシテ、非常ナル不公平ヲ生ズルノデアリマス、ソレハドウ云フコトデアッタカト申シマスルナラバ、明治八年カラ十七年迄ニ應募致シマシタ屯田兵ノ服役ハ現役ト看做サレタ爲ニ、又明治二十五年以來應募ノ屯田兵ハ豫備役ノ名稱ヲ廢シテ現役期間ヲ七年又ハ八年ニ延長セラレマシタ爲ニ、恩給ニ浴スルコトガ出來タノデアリマスガ、其中間即チ明治十八年以後二十四年迄ノ間ニ應募シマシタ者ハ、前申述べマシタ豫備役ニ編入致サレマシタ爲ニ、同じ勤務ニ服シテ居ッテモ恩給ニ浴スルコトガ出來ナイト云フ非常ナル不公平ヲ來シタノデアリマス、斯様ナル次第デアリマスルカラ、此事實ニ基礎ヲ置イテ考ヘテ

見マスルト云フト、是等ノ豫備役期間ニアッ
タ屯田兵ニ對シテ恩給年限ニ通算スルト云
フコトハ、何等ノ不都合ガナイモノト考ヘ
ルノデアリマスルガ、或ハ當局ノ反對ヲ爲
サル理山ハ、大正十二年ノ改正デアッタカ
ト思ヒマスルガ、其改正ノ際ニ於テ、演習
召習ニ應ジタ日數ヲモ恩給年限ニ通算スル
如ク改正セラレマシタ、而モ是ハ改正後ニ
於テ適用スルノデアアルカラシテ、其改正以
前ニ於ケル屯田兵ノ豫備役期間ト云フヤウ
ナ問題ヲ恩給法ニ於テ考慮スルト云フト、
即チ豫後備召集ノ日數ヲ恩給年限ニ通算ス
ルト、却テ既往ニ遡ラナケレバナラヌ、サ
ウスルト云フト、國家ノ負擔モ非常ニ多ク
ナルコトデアアルカラ、他ニ影響スル所ガ多
イカラ、此屯田兵ノ問題ハ恩給法ニ考慮出
來ナイ、斯様ナ御趣旨デハナイカト思フノ
デアリマス、故ニ之ヲ更ニ言換ヘマスナラ
バ、恩給ヲ支給スベキ合法性ハ認めルガ、
他ノ影響ガ大デアアルカラシテ考慮出來ナ
イ、恩給ニ通算スルト云フコトハ困ル、斯
ウ云フ御趣旨デハナイカト思フノデアリマ
スルガ、先ヅ此點ニ付テ政府ノ御所見ヲ伺
ヒタイノデアリマス、而シテ此御所見ハ、
陸軍當局ハ以上申上ゲマシタ、此屯田兵豫
備役期間ヲ現役ト同様ニ勤務セシメタ此事

實ヲ御認めニナルカドウカ、而シテ此事實
ヲ御認めニナル以上ハ、恩給局長トシテ恩
給ヲ支給スベキ其合法性ヲ御認めニナルカ
ドウカ、斯様ニ分ケテ一ツ御答辯ヲ願ヒタ
イト思フノデアリマス

○編員政府委員

只今屯田兵ノコトニ付キ

マシテ色々御尋ガアリマシタガ、其點ニ
關シマシテ、政府ガ今回ノ改正案ニ付テ、
屯田兵ノ豫備兵役期間ヲ通算シテ恩給ヲ新
ニ給シ、又ハ改訂スルト云フヤウナ規定ヲ
置カナカッタ理由ヲ申上ゲタイト思ヒマス

屯田兵ハ只今御述べニナリマシタヤウナ
大體ノ事情デアリマスケレドモ、此豫備役
期間ノ勤務ガ、現役者ノ勤務ト全然同ジデ
アッタト云フノハ、ソレハ勤務ノ程度ヤ、或
ハ勤務ノ種類ガ同ジデアッタト云フコトダ
ラウト思ヒマスガ、其分量ニ至リマス、
現役者ト此豫備役者トノ間ニハ著シイ相違
ガアリマス、豫備役期間ニ於キマシテハ、
一年ヲ通ジテ三週間内外ノ勤務期間ニナッ
テ居リマス、當時出マシタ所ノ屯田兵教育
順次教例ニ依リマスルト、豫備役兵復習科
目及日數表ト云フモノガ附イテ居リマスル
ガ、ソレニ依リマス、步兵、騎兵、山砲
兵、工兵等ヲ通ジマシテ、總テニ於テ、ソ
レ等ノ勤務ト申シマセウカ、演習ノ日數ガ

三週内外ト云フコトニナッテ居リマス、每
日々々ニ於ケル時間ト云フヤウナモノハ、
現役ト大體同ジ時間ニナッテ居リマス、此點
ハ丁度今日ニ於ケル軍人ノ豫備召集ヲ受ケ
タ者ガ、演習其他ノ勤務ニ於キマシテ、現
役兵ト變ルコトナシニ訓練サレマシタ其日
數ガ非常ニ少イ爲ニ、原則ト致シマシテハ、
今日デモ豫備兵役ノ期間ト云フモノハ恩給
年限ニ通算シテアリマセヌ、其事情ハ全ク
此豫備役モ、屯田兵ノ豫備役期間モ同一デ
アルト言ッテモ差支ヘナイコト、考ヘテ居
リマス、幾分カノソコニ程度ノ差異ガ無論
アリマスコトハ認めテ居リマスケレドモ、
併シ大體ニ於キマシテハ、サウ相違ガナイ
ト云フ風ニ考ヘテ宜カラウト思ッテ居リマ
ス、ソレデ元來屯田兵下士卒ニ付キマシテ
ハ、明治七八年ニ太政官達ガアリマス、十
八年ノ五月五日ノ太政官達ノ十八號デゴザ
イマスガ、ソレデ屯田兵條例ガ出マシタ、
ソレカラ同ジ年ノ二月ニ陸軍省ノ達甲六號
デゴザイマスガ、ソレガ出マシテ、屯田兵
志願者心得書ト云フヤウナモノガ出テ居リ
マス、其志願者心得書ニ依リマスルト云フ
ト、屯田兵ニ志願シタ下士卒ニ對シマシテ
ハ、其移住ニ當リマシテハ支度料ト旅費ト
ヲ——先程御話ガアリマシタヤウニ貨幣價

値ノ下リマシタ今日カラ見マスルト云フト
非常ニ少額デアリマスケレドモ、本人及家
族方ニ付キマシテ、旅費トソレカラ支度料
ト云フモノヲ給セラレテ居ル、ソレカラ入
隊ノ時ニ於キマシテハ家宅ヲ給シ、家具ヲ
給シ、夜具ヲ給シ、宅地農具ヲ支給致シマシ
タ、サウシテ其後ニ尙ホ食糧ヲ給シマシタ、
又屯田兵ガ服役中ニ疾病ニ罹リマシタ場合
ニ於キマシテハ、自宅療養ガ若シ一箇月以
上ニ及ブ者ニハ藥價ヲ給シ、又場合ニ依ッ
テ入院シナケレバナラヌ場合ニハ、入院料
ヲ給スル、ソレカラ屯田兵ノ支給ノ満期後
ニ特ニ守衛勤務、又演習行軍等ニ從事致シ
マス、一定ノ月給其他ノ支給ヲ致シテ居
リマス、又開墾方面ニ於キマシテハ、更ニ
土地ヲ給スル、而シテ宅地ハ一戸ニ當ッテ
一萬坪マデ支給スルコトガ出來ル譯デアリ
マス、服役中ハ勿論ノ事、免役後十箇年間
ハ免租ヲスルト云フ特點ヲ與ヘマシテ、隨
テ當時ノ恩給法ト致シマシテハ、之ヲ以テ
更ニ服役期間ヲ恩給ノ基礎ニ取ッテ、之ニ重
ネテ恩給ヲヤルト云フ必要ハ無イモノデア
ルト云フ事情デ、當時ノ恩給法ヲ規定致シ
タ譯デゴザイマス、ソコデ明治十八年ノ太
政官達四十號ノ陸軍恩給令附則ト云フモノ
ガアリマスガ、ソレニ依リマシテモ、屯田

兵ノ豫備役期間ヲ現役ト同様ニ勤務セシメ
タ此事

兵下士卒デアッテ、定規ノ給與ヲ受ケタ者ノ在職年ハ、是ハ普通ノ恩給ノ在職年ノ基礎ニハ取ラヌ、併ナガラ戰時又ハ平時ニ拘ラズ、軍隊勤務中公務ノ爲ニ死歿シ、又ハ傷痍疾病ヲ受ケテ、職務ニ堪ヘナイヤウナ場合ニハ之ニ恩給ヲ給スルト云フコトニ致シマシタ、サウシテ又同ジ屯田下士ノ中デ、北海道移住ノ節ニ、定規ノ給與ヲ受ケザル者ニ對シテハ、總テ本令ニ依リ各種ノ恩給ヲ支給スルト云フコトニナリマシテ、其給與ヲ受ケタ人々ニ對シマシテハ、更ニ之ヲ恩給デ考ヘテヤルモノデハナイト云フコトヲ、既ニ其當時ニ於ケル明治十八年ノ法令ガ之ヲ認定シテ居リマス、軍人恩給法ヲ制定セラレマシタノガ明治二十三年デアリマスガ、軍人恩給法ニ於キマシテモ其趣意ヲ採リマシテ、同ジ屯田兵ノ中デ士官ニ於キマシテハ、サウ云フ定規給與ヲ原則トシテ受ケテ居リマセヌ、サウ云フヤウナ人々ニ付キマシテハ無論一般ノ軍人トシテノ恩給ヲヤルコトニナッテ居リマシタガ、屯田兵下士卒ニ付キマシテハ、從軍スルカ又ハ——是ハ後ニ改正サレタ部分デアリマスガ、屯田兵村監視若クハ部隊附トナリ、軍隊ノ業務ニ服シタトキ其日數ダケハ服役期間ニ通算スル、又屯田兵下士卒ガ立身シテ、准士

官以上ノ軍人ニナルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、屯田兵下士卒ノ、即チ定規給與ヲ受ケタ分ダケニ付テハ、除隊シテ准士官以上ニナリマシタ以上、ソレ以上ノ日數ダケニ付テ之ヲ服役期間ニ入レルト云フヤウナコトニ致シマシタ譯デ、大體ニ於キマシテハ、サウ云フ事情カラ、定規ノ給與ヲ受ケマシタ屯田兵下士卒ニ付テハ普通ノ恩給ハヤラナクテモ宜シイト云フ風ニ、當時ノ法制ハ認メテ參リマシタ、恐ラク當時ニ於ケル所ノソレガ公平ナ取扱ダッタト云フコトハ、今日カラ見テ考ヘラレルコトデアル、所ガ大正十二年ニ現行恩給法ヲ制定スルニ當リマシテ、第百二十條ヲ置キマシテ、現役ノ屯田兵ニ付キマシテモ現役ノ期間ハ之ヲ在職年數ニ取ッテ、今マデ恩給ヲ貰ハナカッタ者ニ新ニ將來ニ對シテ恩給ヲヤル、其期間ガ在職年ニ通算セラレナカッタ者ニ付テハ、之ヲ通算シテ恩給ニシテヤルト云フヤウニ致シタヤウナ譯デアリマス、ソレガ大正十二年ニ於キマシテモ、只今御述ベニナラレタ通りニ、靴工ト云フヤウナ比較的樂ナ勤務ヲシテ居ッタ者ガ通算サレルコトニナリ、苦勞デハアルガ勤務日數ノ少イ者ハ通算サレナカッタノハ不當デアルト云フヤウナ所カラ、色々ナ陳情ガアリマシテ、

結局一種ノ妥協ト申シマセウカ、現役期間ダケハ通算シテヤラウト云フコトニナリマシタヤウナ事情デ、今日カラ此豫備期間ヲ更ニ遡ッテ、之ニ恩給制ヲ認メテ、假令將來ニ向ッテ恩給ヲ給スルトニ致シマシテモ、恩給法トシテ斯ウ云フヤウナ改正ヲシテ行カネバナラスト云フ其理由ハ實ハ發見致シマセヌ、固ヨリ豫備役勤務ハ陸軍ノ方カラ更ニ申上ゲルコトニナルト思ヒマスガ、簡單ニ申上ゲルナラバ、今日ノ豫備期間トハ幾ラカ相違シテ居ッタト云フコトハ無論認メラレマスガ、サウ云フ事情ハアリマスケレドモ、其豫備期間ヲ更ニ新ニ取上ゲテ、恩給法中ニ其在職年ヲ通算スルト云フヤウナコトニ致シマスルト、今日ニ於ケル豫備期間ト云フモノモ一般ニ亦取ッテ考ヘナケレバナラスト云フコトニ自然ニナルガラウト思ヒマス、ソレハ單リ財政ノ上カラ言ッテ困ルノミナラズ——財政上カラ申シマスレバ無論困リマスケレドモ、況ヤ非常ニ古イ過去ニマデ遡ッテ、其在職ヲ穿鑿シテ參リマシテ、之ヲ通算シテ行クト云フヤウナコトハ、財政上最モ困リマスノミナラズ、又技術的ニ甚シク困リマス、現在ノ他ノ公務員ナドノ通算ト鈞合ヲ取ッテ考ヘテ見マスト、是亦恩給法トシテハ困ルト云フコトガ考ヘ

ラレマス、サウ云フヤウナ事情カラ今回ノ恩給法ニ於キマシテモ、屯田兵ノ問題ニ付テハ他ノ方法デ之ヲ解決スルト云フヤウナコトハ別論ト致シマシテモ、恩給法トシテハ、此豫備期間ヲ通算シテ恩給ヲヤルト云フコトハ困ルト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、尙ホ豫備役期間ノコトニ付キマシテハ、陸軍ノ方ノ係ノ者ガ見エテ居リマスカラソレカラ御伺シタラドウカト思ヒマス

○中井陸軍歩兵大佐 只今林サンカラ御質疑ニナリマシタコトニ付キマシテ御答ヲ申上ゲマス、屯田兵ノ現役ト豫備役ト同一デアルヤ否ヤ、陸軍ハドウ考ヘテ居ルカト云フ御質問ノ要旨デゴザイマシタガ、屯田兵ガ廢止サレマシテカラ將ニ三十年ニ垂、トシテ居リマス、既ニ只今御示シナリマシタヤウナ當時ノ幹部モ、何レモ故人ニナッテ居リマス、私共ト致シマシテハ當時ノ軍事ニ關シマスル、就中其教育ニ關シマスル職權ヲ根據ニ論ジナケレバナラスノハ是非ナイコトデアリマシテ、今カラドウシテ調べタ所デ調ガツカナイノデアリマス、只今樋貝恩給局長カラ御引用ニナリマシタ如ク、當時ノ屯田兵ノ軍事教育ニ依リマスト、現役ニ服シテ居リマス者ノ教育ハ一年ヲ通ジ

テ四百五十時間トアリマス、一年ヲ通ジテ
四百五十時間ト申シマスルト、平均一日一
時間半位ニナリマスガ、ソレニ日曜トカ祭
日トカ云フモノヲ引去ッテ考ヘマス、殆ド
毎日半日位ハ教練及屯田ヲヤッタノデハナ
イカト想像セラレマス、之ニ反シテ豫備役
ニ服シテ居リマスル者ニ付キマシテハ、一
年三週間ダケ教育ヲ施スト云フコトニナッ
テ居ルヤウデアリマス、此三週間ハ何レノ
期間ニ於テヤッタノデアルカ、纏メテヤル、
或ハ分割シテヤルト云フヤウナ規定ガ、今
日殘ッテ居リマスルモノ、中デハ、ハッキリ
ハ致シマセヌガ、併シ一方ハ時間デ決メ、
一方ハ日デ決マリマシタノデアリマスカ
ラ、矢張當時一般ノ陸軍部内ニ於キマシテ、
勤務演習召集ヲヤッタ居リマシタ如ク、或ル
一定期間ヲ定メテ、三週間ヲ服役サセタノ
デハナイカト思フノデアリマス、斯様ニ考
ヘマス、茲ニ現役ト豫備役トノ差ト云フモ
ノガ非常ニ多イノデアリマシテ、屯田兵ハ
兵村即チ兵營デアッタカモ知レマセヌカラ、
其間ハ起居ニ於キマシテ、現在ノ軍人ノ如
クハッキリトハ致シテ居ラヌカモ知レマセ
ヌガ、觀念トシテハ、矢張三週間ダケハ家
ニ居ッテモソレハ勤務演習ニ應ジテ居ルノ
デアリマス、後ノ大部分ト云フモノハ、軍

隊ニ居ルト同ジ心持デ教育ヲ受ケルノデア
ル、斯ウナリマスルト、現役者トノ間ニ於
キマシテ其處ニ可ナリ大ナル開キガアルト
申サナケレバナラヌノデアリマス、私共モ
若干年前カラシテ、屯田兵ノ豫備役ト現役
トハ同一デアッタト云フコトヲ屢、陳情ニ
遭ッテ居リマス、只今御述べニナリマシタ
内當時ノ中佐、或ハ淺田少將、或ハ渡邊水哉
當時ノ中佐ト云フヤウナ方々カラ、證明書
マデモ實ハ陸軍省ニモ參ッテ居リマスガ、先
程申シマシタヤウニ何レモ故人デアリマシ
テ、十分ニ訊質ス譯ニモ參リマセヌ、デ色
色ト口傳ヘテ傳ハリマシタ所ニ依リマスル
ト、屯田兵ノ兵村ニ於キマスル所ノ兵農ト
云フモノハ、極メテ其邊ハッキリシナイ點ガ
ゴザイマスノデ、中ニハ殆ド上官ノ命令デ
——上官ノ命令デアルカドウカソレモ分リ
マセヌガ、心安ゲニ、オ前來テ教練ヤラヌ
カ、ヤリマセウト云フヤウナ譯デ、今日ノ青
年訓練ト比較シテハ如何カト思ヒマスガ、
ア、云フヤウナ要領デ、豫備役デ義務ハナ
カッタノデアアルケレドモ、教練ヲヤルノモ
愉快カラ出テ行カウト云フヤウナ考デ出タ
者モアリハセヌカト思フノデアリマス、斯
様ニ考ヘマス、ドウモ私共トシテ、今日
デハ、實質ハドウデアッタカ、或ハ其證明ハ

ドウデアアルカハ別問題ト致シマシテ、ドウ
シテモ當時ノ法令ヲ根據ニ事實ヲ確認スル
ヨリ外ニ手ガナイノデアリマス、舊テ法令
ヲ根據ニ致シマス、只今ノ如ク現役ト豫
備役ノ間ハ非常ニ開キガアルノデアリマス
ガ、他ノ今日ノ一般ノ豫備役期間ト比較致
シマシテ、之ヲ屯田兵ニ限ッテ全部通算スル
ト云フコトハ、軍人其モノニ付テ頗ル不公
平ガアルヤウニモ思ハレマス、隨ヒマシテ、
現役ト豫備役ヲ同様ニ見ルコトハ、私共ト
シテハ正シキ見方デハナイ、斯ウ云フ風ニ
考ヘテ居ル次第デアリマス、ドウゾ其邊ヲ
御諒承願ヒマス

○林委員 先ヅ樋貝恩給局長ノ御答辯ニ對
シテ、更ニ御尋ヲ致シマス、此屯田兵ノ恩
給問題ノ沿革ヲ論ズルニ當ッテハ、大體時代
ヲ二ツニ區別シテ考ヘナケレバナラヌモノ
デアルト思フノデアリマス、何故ニ最初ノ
軍人恩給法ニ於テ、屯田兵ノ恩給ヲ考慮シ
ナカッタカト云フコトハ、是ハ屯田兵ニ應募
致シマシテ、サウシテ移住セシメラレ、其
移住手當、或ハ移住後ニ於ケル給與等ガ、
恩給ヲ給給シナクテモ宜イト云フ特殊待遇
ノ下ニアッタノデアアル、故ニ恩給ヲ考慮スベ
キモノデナイト云フ觀念デ、軍人恩給法ニ
ハ是ガ設ケラレナカッタノデアアル、併ナガラ

此軍人恩給法ニ之ヲ認メナカッタト云フコ
トハ、單ニ屯田兵其モノニ付テノミノ觀察
カラシテ斯様ナ誤リヲ來タシタモノデア
ル、翻ッテ然ラバ北海道ガ明治二年以來、即
チ明治大帝ノ御詔勅ニ依ッテ北門開拓ノ必
要ヲ政府ガ認メ、即チ明治大帝ノ宏謨ニ從ッ
テ北海道ノ拓殖ガ行ハレタ、北海道ノ拓殖
ヲ行フニ當ッテハ如何ナル取扱ヲシタカ、即
チ何等兵役ニ關係ノナイ移住者——府縣ヨ
リ北海道ニ移住シマスル者ニ如何ナル特典
ヲ與ヘタカ、移住手當モ支給スレバ、移住
後ニ於ケル土地ノ給與モ致シマス、或ハ小屋
掛料モ給與ヲシタ、多少屯田兵トノ間ニ厚薄
ノ區別ハアリマセウケレドモ、單ニ北海道ニ
渡ッテ、サウシテ北海道ノ土地ヲ開クコトガ
目的デ移住シマシタ者ニ對シテ、政府ガ相當
ノ恩典ヲ與ヘ、土地ノ給與ナドモ無論屯田
兵ナミ、ソレ以上ニ與ヘタ、屯田兵ハ單ニ土
地ヲ開拓スルコトガ目的デナイ、北門警備ノ
重任ヲ負ハサレテ居ル、又一朝事有レバ出征
モシタノデアリマス、即チ兵農兩全ヲ目的ト
シタノデアアル、特別ノ任務ニ服シタ者デア
ル軍務ニ服シタ者デアアル、軍務ニ服シタ者デ
アルナラバ、ソレ相應ノ給與ヲ致スコトハ今
日モ變ラナイコトデアアル、ソコデ屯田兵以外
ノ北海道ノ開拓ニ從ッタ者ノ取扱ハドウ云

フ状態デアツカト云フコトヲ考ヘテ見ル
ト云フト、以上私ガ申述べタ通りデアルカ
ラシテ、隨テ屯田兵ヲ軍人恩給法ニ於テ考
慮シナカッタト云フコトガ誤リデアツタ、殊
ニ大正六年ノ改正ノ際ニ於テ、或ハ兵村監
視ヲ認メ、或ハ縫工、靴工等ノ仕事ニ服シ
タ者ヲ恩給法ニ認メタト云フコトガ、是ガ
即チ一般現役兵ヲ恩給年限ニ通算シナケレ
バナラヌト云フ必要ヲ促進シタコトニナ
ル、前申上ゲタヤウニ縫工デアルトカ、靴
工デアルト云フヤウナモノハ演習勤務ハ致
サナイ、中隊或ハ大隊ノ本部ニアツテ極メテ
樂ナ仕事ニ従事シタ、其他ノ屯田兵ハ極寒
或ハ炎天下ニ曝サレデ、サウシテ軍事教練
ニ服シタノデアアル、樂ナ勤務ニ服シタ者ヲ
恩給ニ認メテ、嚴シキ軍務ニ服シタ者ハ恩
給ニ認メナイト云フヤウナ改正ガ大正六年
ニ行ハレタコトハ既ニ不公平デアルケレド
モ、兎ニ角大正十二年ノ改正ニ於テ此不公
平ガ是正セラレタ譯デアリマス、何故ニ屯
田兵ノ現役期間ヲ恩給法ニ通算シナケレバ
ナラナカッタカト言ヘバ、是ハ即チ北海道ニ
於ケル一般移住者ニ對スル特典ト比較シテ
見デ、屯田兵ヲ除外スルコトハ出来ナイト
云フ其非ヲ覺ラレタ爲メデアアル、隨テ樋貝
局長ガ長々ト御述べニナリマシタ屯田兵ニ

對スル國家ノ特殊待遇ト云フモノハ、大正
十二年ノ改正ニ依ッテ總テガ解決済ナノデ
アリマス、軍人恩給法ニ於テ屯田兵ノ恩給
ヲ認メナカッタト云フコトハ、誤リデアツタ
ト云フコトガ、大正十二年ノ改正ニ依ッテ解
決セラレテ居ル、殘ル問題ハ、然ラバ屯田兵
ノ現役ハ大正十二年ノ改正ニ依ッテ恩給法
ニ認メラレタガ、是同様ノ勤務ニ服シタ
——豫備役ノ名稱ヲ附セラレテ居ラケレ
ドモ、事實ニ於テハ現役ト同様ノ勤務ニ服
セシメラレタ所ノ豫備役期間ニ在リシ者ヲ
認メルカドウカト云フコトガ、今日取殘サ
レテ居ル問題デアアル、ソコデ樋貝局長ノ御
答辯ハ、實際勤務ノ狀況ガ、果シテ現役ト
同様デアッタトスルナラバ、無論豫備役期間
中ト雖モ此恩給ヲ認メナケレバナラヌモノ
デアアル、斯様ナ結論ニ達スルデアラウト思
フ、屯田兵ニ對スル特典ト云フヤウナモノ
ハ、既ニ清算済デアアル、大正十二年ノ改正
ニ依ッテ、其問題ハ清算済ナノデアアル、今日
何人モ屯田兵ノ現役ニ對シテ恩給ヲ支給シ
タト云フコトガ不合理デアツタト云フコト
ハ考ヘラレナイ、左様ナコトヲ申スベキ時
デナイ、政府ガ法律トシテ公布シ、既ニ今
日ハ其實施中ニアアル、唯問題ハ豫備役期間
中ノ者ノ勤務ガ現役ノ者ト異ッテ居タカド

ウカト云フコトガ問題ナノデアアル、此問題
ハ後ニ更ニ御尋ヲ致シマスルガ、要シマス
ルニ、私ノ申シマシタ如ク、果シテ現役ト
同様ノ勤務ニ服シタモノデアルトスルナラ
バ、其期間ヲ恩給期間ニ通算スルコトガ適
當デアルト云フ結論ニ要約シテ、アナタノ
御答辯ヲ判斷シテ考ヘテ宜カラウト思フ、
是ハ左様ニ考ヘテ宜シイカドウカ
更ニ中井恩賞課長ノ御答辯ニ付テ御尋ヲ
致シタイコトハ、中井課長ノ御話ノ通りデ
アルトスルナラバ、如何ニモ私共ガ此屯田
兵ノ豫備役期間ヲ恩給期間ニ通算シテ貰ヒ
タイト云フコトハ、黒ヲ白ト言ヒ括メテ無
理ナ註文ヲシテ居ルト云フコトニ聞カレル
ノデアリマス、ソコデ一體トチラノ言フコ
トガ事實デアルカト云フコトガ、是ガ疑問
ニナッデ參ルノデアリマスルガ、陸軍ノ今日
迄ノ御調べガ如何ナルモノニ根據ヲ置カレ
タノデアアルカ、之ヲ更ニ明ニシテ戴カンケ
レバナラヌノデアアルガ、私ガ先刻申上ゲマ
シタ所ノ證明書或ハ認定書ヲ出シマシタ人
達ノ中ニハ現存シテ居ル方モアル、例ヘバ
陸軍歩兵中佐柝内元吉氏ハ、昨年故人トナ
ラレマシタ、柝内海軍大將ノオ兄サンデ、
現ニ盛岡市デ健在シテ居ラレル人デアアル、
此人ハ斯様ナ證明書ヲシテ居ル

小官ハ明治二十三年屯田歩兵第四大隊
長トシテ赴任、明治二十八年臨時第七師
團制定ニ際シ輜重縱列長ニ轉任

屯田兵ハ家族制度ニシテ其任務ハ單ニ
兵員ノミナラス家族モ亦服務ノ義務ヲ有
シ其編制屢變更セラレ豫備役滿期ニ至
ルマデ現役大隊ニ編入中隊長以下現役將
校ヲ配屬シ特殊ノ取扱ヲ爲シタルハ要ス
ルニ軍事教育ノ訓練及指揮監督ノ必要然
ラシメタルナリ豫備役ハ一日六時間以內
ノ演習ハ手當ヲ支給セスシテ現役ト共ニ
時々演習ノ義務ニ服シ之レヲ義務演習ト
名稱セリ故ニ屯田兵ノ豫備役ハ一般師團
兵ノ豫備役トハ事實ニ於テ大ナル相違ナ
リ獨リ服役ノ相違ノミナラス身上ノ拘束
モ更ニ嚴重ナル規定ニ據リ拘束セラレタ
ルモノナルヲ以テ名ハ豫備役ナルモ其服
役義務ノ情況ハ現役同様ト認ムルヲ適當
トス
右證明ス
又元第七師團副官デアアル陸軍歩兵中佐大塚
嘉輝ト云フ人ハ、是亦現ニ札幌市ニ現存シ
テ居ラレル方デアリマス、此人ハ斯様ナ證
明書ヲ出シテ居リマス

小官ハ明治二十年室蘭屯田兵獨立中隊
附トシテ赴任シ、永山屯田歩兵第三大隊

副官ヨリ第七師團副官ニ轉シ屯田兵制廢止ニ至ルマテ其事務ヲ專任セリ

屯田兵ノ豫備役ナルモノハ必任義務兵ノ豫備役トハ全然其赴ヲ異ニシ豫備役滿期ニ至ルマテ現役隊ト共ニ軍隊編成下ニアリテ大隊長中隊長小隊長等ノ現役將校ヲ配屬シ指揮監督ヲ受ケ平常各自ニ武器被服及裝具ヲ貸與シアリテ軍事訓練ハ勿論衛兵當番等ノ諸勤務ニモ服役セシメタルモノナリ

殊ニ明治二十七八年日清戰役前ノ豫備役中當時ハ東洋ノ風雲急ナリシヲ以テ軍事訓練ニ一層重キヲ置カレ規定ノ軍事教育ノ外ニ屢ニ義務演習ヲ(一日六時間以内ノ訓練ニハ手當ヲ支給セス)實施シアリ、尙ホ身分ノ取扱モ規定ニヨリ常ニ拘束セラレタルモノナルヲ以テ、其服役義務ノ實ニ於テハ名ハ豫備役ナルモ殆ント現役ト同様ト認ム

斯様ナ證明書ヲ出シテ居ラレル、而モ此兩氏ハ現存シテ居ラレル方々デアリマス、若シモ中井課長ノ仰シヤルヤウナ勤務ノ狀況デアッタトスルナラバ、如何ニモ此兩氏ハ事實ト相違シタ誇大ナ證明書ヲ出シテ居ルト云フコトニナルノデアリマス、又中井課長ハハッキリトハ申サレマセヌガ、想像シテ、

或ハ當時ノ屯田兵ノ豫備役期間ノ勤務ト云

フモノハ、今日ノ青年訓練ニ近イヤウナ教練ノ仕方デハナカッタカ、例ヘテ云ヘバ自由デアッタ、其勤務ニ服スト否トハ自由デアッテ、都合ガ好ケレバ出テ來テ、演習或ハ訓練ヲ受ケルト云フ程度ノモノデハナカッタカト仰シヤリマスケレドモ、此證明書ノ中ニモアリマスヤウニ、豫備役滿期ニ至ルマデ現役隊ト共ニ軍隊編成下ニ在リテ大隊長、中隊長、小隊長等ノ現役將校ヲ配屬シ指揮監督ヲシタモノデアアル、若シモ豫備役期間ニ於テノ勤務ガ屯田兵ノ自由意思ニ基クモノデアルトスルナラバ、豫備役期間ニ在ル所ノ屯田兵村ニ、特ニ大隊或ハ中隊其他ノ常備ノ機關ヲ置ク必要ガ何處ニアアル、又勤務ガ三週間程度ノモノデアラナラバ、斯様ナ機關ヲ年中通シテ常備シテ置ク必要ガ何處ニアアル、是等ノコトヲ考ヘテ見マサルト、即チ現役兵ト共ニ軍隊編成下ニ在ッタ、而シテ以上ノ機關ヲ常備シテアッタ、此事實カラ想像致シテ見マシテモ、現役ト同様ノ訓練教育ヲスル、勤務ニ服セシムルト云フコトガ事實デアッタニ相違ナカラウト思フノデアリマス、ソコデ此問題ハ、要スルニ見解ノ相違トナルノデアリマスルガ、如何ニモ現存シテ居ル、此名譽アル屯

田兵關係ノ人ノ證明ト云フモノガ、若シモ事實デナイ、間違ッテ居ルト云フコトデアアルナラバ、是ハ洵ニ此問題ノ解決ノ上ニ重大ナ結果ヲ及ボスモノデアルト考ヘマスカラ、陸軍當局トシテハ、更ニ十分ナル調査ヲナサル必要ガアリハシナイカト思フノデアリマスルガ、此點ニ付テ重ネテ中井恩賞課長ノ御答ヲ得タイト思フノデアリマス、以上ノ御答ヲ得マシテ更ニ私ハ御質問申上グルコトヲ保留致シテ置キマス

○糧食政府委員 只今私ニ對シマシテノ御尋ノ分ハ、屯田兵ノ豫備役期間中ニ於テノ勤務ガ、現役ト同様デアッタナラバ、其期間ヲ在職年ニ通算シテ恩給ヲヤルト云フコトニナルノデアラウト云フ御尋デアリマシタガ、此點ニ付キマシテハ、二ツニ之ヲ分ケテ御答シタイト思ヒマス

一ツハ現役ト同様デアッタカラト云フダケデ、今日カラ遡ッテ恩給ヲヤルト云フコトニ當然相成ルトハ考ヘラレマセヌ、是ハサウ云フ風ニ非常ニ古イ時代ニ遡テ更ニ之ヲ考フルコトガ正當デアルカ否カト云フコトハ、公務員全體トシテハ他ニモ之ニ類シタヤウナ事項モアリマスノデ、サウ云フモノトノ比較ノ上カラ考ヘナケレバナリマセヌカラ、直チニ今御尋ノヤウナ結論ニハナ

ラスト思フノデアリマス

モウ一ツハ豫備役期間ノ服役ト云フモノガドウデアッタカト云フコトハ、恩給制度、恩給法ノ上カラ申シマスナラバ、是ハ制度ニ依ッテ見ルノ外ハナイト思フノデアリマス、現在ニ於キマスル諸般ノ勤務ニ致シマシテモ、例ヘバ之ヲ例ヲ軍人ニ取リマシテモ、割合ニ樂ナ――外見上樂ナ勤務モアリマセウシ、又非常ニ苦勞ナ勤務モアルガラウト思ヒマス、是ハ文官方面ニ於キマシテモ同様デアリマス、一人々々ノ極ク細密ナ場合ニ於キマシテ之ヲ比較シテ見マシレバ、著シイ相違ガアリ得ラウト思フ、ソレデ他ノ比較的樂ナ勤務者ガ通算サレテ、苦勞ナ勤務者ガ通算サレナカッタト云フコトガ若シアリトスルナラバ、不公平デアルコトハ申スマデモナイコトデアリマスケレドモ、併シ制度一般トシテ見マサルト、サウ云フ時ニ其一ツノ區別シテ取扱フト云フコトハ出來ナイ場合モ隨分アリマス、其點ハ唯ソレダケデ通算ヲセネバナラスト云フヤウナコトハ、出來ヌヤウニ思ッテ居リマス、ソレカラ尙ホ今申シマシタヤウニ、此屯田兵ノ豫備役期間ガ現役ノ勤務ト同ジデアッタト致シマシテモ、其分量ガ非常ニ違ヒマス、先程申シマシタヤウニ一年

ヲ通ジテ三週間ト云ッタヤウナ日數カラ致シマス、非常ニ僅少ナ日數ガ勤務サレル譯デ、ソレガ三週間引續イテ居ッタハ考ヘラレマセヌガ、恐ラクハバラ／＼ニ三週間分勤務サセラレタコト、考ヘテ居リマス、隨ヒマシテ散ラバツテ居ッテ勤務期間ヲ服役年數ニ取ッテ恩給ヲヤルト云フコトハ、

消ヲ致シマス

恩給法ノ建前トシテハ困ルト思ヒマス、尙ホ明治二十七年ニ屯田兵條例ガ改正サレマシテ、先程モ申サレマシタヤウナ工合ニ、現役期間ヲ八箇年トシテ豫備役期間ヲ廢止シタ譯デアリマスガ、當時ノ改正ノ理由ヲ

見マスルト、豫備役時代ニ於テハドウモ勤務ガ――斯ウ云フ言葉ハ使ッテアリマセヌケレドモ、極端ニ言ヘバダラシガナイカラ、ソレデハ駄目ダカラ現役制度ニスルノ

ダト云フ趣旨デ此改正ガ出來上ッテ居ッタヤウデアリマス、今日カラ願ミテ現役期間ノ勤務ト全然同ジデアッタハ考ヘラレマセヌ、隨テソレニ對シテ新ニ恩給ヲ給與スルト云フコトハ困ルト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○中井陸軍歩兵大佐 只今私が御答致シマシタ中ニ、大部分が故人ニナッテ居ルト申シマシタ、ソレニ對シテ生存者ガアルト云フ御親切ナル御示シガアリ、洵ニ感謝致シ

マス、私ノ誤リマシタ點ニ付キマシテハ取

消ヲ致シマス

私ハ此證明書ヲ決シテ誇大ナモノトハ考

ヘテ居リマセヌ、事實ニ於キマシテ有力ナ

ル先輩ノ方ノ證明ヲ無下ニ否認スルモノデ

モゴザイマセヌ、兵役義務者及廢兵待遇審

議會等デモ、私ハ其席ニハ列シマセヌデシ

タガ、前任者ノ話ニ依リマス、矢張ソレ

等ノ陳情モ審議ノ資料ニ供セラレタヤニ承

知致シテ居リマス、其際ニ於キマスル所ノ

話ヲ聞イテ居ルノデゴザイマスガ、此豫備

役期間中六時間、毎日教練ヲヤラシタト云

フコトハドウ捜シテモ法令ニハナイ、是ハ

ハッキリト前任者ヨリ口カラ耳ニ聽イテ居

ルコトデアリマス、ドウモソレガ爲ニ根據

ガ分ラナイ、其根據ガ分レバ宜イト云フヤ

ウナコトモ屢、洩ラシテ居ッタコトデアリマ

ス、今日マデモ私ハ現職ヲ辱ウ致シテ以來

調ベテ見マシタガ、ドウモ見當リマセヌ、

サウスウナリマス、當時屯田兵制ノ和氣

靄々タル兵農一致ノ制度デ、上官ノ命令ガ

アレバ、ハイ行キマセウト云フヤウナ譯

デ、喜ンデ現役兵ト共ニ教練ヲヤッタノデ

ハナカラウカト思フヤウナ譯デアリマシ

テ、之ヲ以テ法律或ハ其他ノ義務附ケラレ

タ所ノ教練デアルト云フ風ニ考ヘルコト

ハ、今日ニナリマシテハ遺憾ナガラ出來ナ

イ次第デアリマス、隨ヒマシテ屯田兵教育

順次教例ガアリマスルガ、現役ト豫備役ト

ノ教育日數ノ差ヲ根據トシテ直チニ改正セ

ラレナイヤウニ考ヘテ居リマス、又先程豫

備役期間ハ青年訓練ノ如キモノデハナイカ

ト想像サレルト申上ゲマシタガ、ソレハ他

ニ適當ノ例ガゴザイマセヌノデ、或ハ當ラ

ヌカモ知レスト云フ想像デアリ、且ツ餘リ

良イ例デハナイト云フ意味デ申上ゲタヤウ

ナ譯デ、決シテ青年訓練所ト同様ノモノデ

アッタト云フ譯デアリマセヌカラ、ドウ

ゾ此意味ヲ御諒承願ヒマス

○林委員 中井恩賞課長ノ御答辯ノ中ニモ

アリマシタヤウニ、中々今日殘サレテ居ル

文書ノ上ニ於テハ、勤務ノ狀況等ニ付テハ

キリ分ラナイ、若シ其中ニ多少殘サレタル文

書ガアッテモ、ソレハ此證明書ナド、違ッテ、

極メテ樂ナ勤務ニ服シタモノ、如キモノ、

ミガ書類トシテ殘ッテ居ルト云フコトデア

リマス、ソコデ課長ノ仰セラレマシタヤウ

ニ、或ハ其當時ヲ想像シテ、當時ノ屯田兵

ト其上官トハ、極メテ家族的ニ親密ナ關係

ニアツタカラ、ト云フヤウナ御言葉モアリマ

シタガ、其點ハ確ニ事實デアリマス、是ハ

私ハ特ニ委員諸君ニ御判斷ヲ戴ク上ニ申上

ゲテ置キタイノデアリマスガ、斯様な例サ

ヘアル、明治二十四年カラ二十六年ノ此三

箇年ニ互ッテ徵募致シマシタ屯田兵ハ、明治

二十四年マデニ募集シマシタ屯田兵ト同様

ニ、最初ハ現役三箇年豫備四箇年ト云フ屯

田兵條例ノ下ニ於テ徵募シタノデアリマ

ス、所ガ其現役三箇年ガ將ニ終ラントスル

頃突如七箇年ニ延長セラレタ、ソコデ明治

二十五年カラ明治二十七年ニ徵募サレタ者

ハ、三箇年ノ法令ノ上ニ於テノ約束デアッ

タガ、七箇年ニ延長セラレタ爲ニ、七箇年現役

ニ服シタ、斯ウナッテ居ル、而モ後ノ四箇年

間ハ無給與デ現役ニ服サシタ、所ガ斯様な

法令ヲ出シテ、現役ノ年限ヲ二倍以上ニ延

長スルコトハ、如何ニモ亂暴ノヤウデアリ

マスガ、是ハ或ハ今日書類ニ依ッテ御調ニ

ナッテモ分ルノデアリマスガ、屯田兵カラ志

願シタ形式ニナッテ居ル、現役年限ヲ延長シ

テ戴キタイト云フ志願ニ基イテ現役年限ヲ

延長シタ形ニナッテ居ル、何故之ヲ志願シタ

カト言ヘバ、ソレハ當時軍部ト致シマシテ

ハ、日清ノ風雲ガ急ニナッタ爲ニ、ドウシテ

モ屯田兵ト云フモノ、訓練ヲ十分ニシナケ

レバナラヌ、又何時デモ出征ノ出來ルヤウ

ニ常備シテ置カナケレバナラヌ、ソコデ屯

田兵ニ對シテ時局ノ重大ナコトヲ當時ノ屯

田兵司令官デアッタ者ガ、屯田兵ニ告ゲタ、オ前達ハ何時デモ事變ガ起ッタナラバ出征シナケレバナラス、斯様ナ際デアアルカラ考ヘナケレバナラス、現役年限ヲ延長シテ貰ッテ、サウシテ常備サレテ居ルト云フコトガ宜イデハナイカト云ヤウナコトヲ上ノ人達カラ言ハレテ、ソレナラバ其願書ヲ出シマスト云フノデ、現役年限ヲ七箇年ニ延長シテ戴キタイト云フ願書ガ出テ居ル、之ニ基イテ現役年限ヲ二倍以上ニ延長サレタ、今日デハ殆ド想像出來ナイヤウナコト、御上ニ左様ナ意圖ガアリ、左様ナ意圖ニ於テ告ゲラレ、バ、左様ナ願書デモ出スト云フヤウナ工合ニ洵ニ今日ノ一般ノ——今日デモ無論我國ノ國民性トシテ國家非常ノ場合ニハ一切ノ利害ヲ超越シテ御奉公申上ゲルデアリマセウガ、當時ハ之ニ對シテ何等ノ議論モナクシテ、屯田兵ハ極メテ單純ニ當然ニ心得テ左様ナ願書マデ出シタト云フ程ニ、上下ノ間柄ガ極メテ親密デアッタ、隨テ法令ヤ或ハ條例ト云フヤウナモノニ依ラナイデモ、色々屯田兵ハ勤務ニ服シテ居ッタト云フコトモ亦想像ガ付ク譯デアリマス、ソコデ當時屯田兵ノ現役年限三箇年ヲ七箇年マデニ延長シナガラ、後ノ四箇年ノ現役ニ於テハ無給與デアッタ位デアリマス

カラ、豫備役屯田兵ニ對シテハ、給與ノ豫算等ハ幾ラモナカッタ、極ク少額デアッタ、ソコデ毎日六時間以上ノ勤務ニ服サシメテ居リマシテモ、六時間以上ニナルト云フト、給與ヲシナケレバナラス規則デアアルカラシテ、八時間勤務シテモ六時間以内デ終ッタヤウニシテ無給與デ済シタト云フコトガ、是ガ事實ナノデアリマス、隨テ上級ノ官廳、即チ陸軍省等ニ現レテ居ル文書ニ付テ、常ニ實際ノ勤務ト給與トノ關係ヲ考ヘルト、合ハナイコトバカリ出テ來ルノデアリマス、隨テ給與シタ場合ハ即チ勤務ニ服シタ場合、給與シナイ場合ハ勤務ニ服シナイ場合ト云フヤウナ工合ニナッテ居ルト思ヒマス、又當時ノ屯田兵達ハ皆異口同音ニ左様ニ申シテ居ルノデアリマス、隨テ今日殘サレテアル文書ハ屯田兵ニハ極メテ不利ナルモノ、ミデアアルカラ、此文書ニ基イテ判斷致シマス、其當時ノ事實トハ大分相違ヲ來スノデアリマス、ソコデ名譽アル先輩ノ人達ノ言フコトヲ信ズルカドウカ、其人達ノロカラ聽クニアラザレバ、當時ノ屯田兵ノ勤務ノ實情ハ分カラヌノデアリマシテ、其點ガ豫備役期間中ノ屯田兵ノ問題ヲ解決スル上ニ於テハ、關係者達ニ對シテ極メテ氣ノ毒ナル事情デアルト

云フコトヲ御承知置キヲ願ヒタイ、隨テ今日トシテハ先ヅ今御述ニナリマシタヤウナ證據ニ基イテ御判斷ニナルトスレバ、此請願ノ取扱ニ於テ、即チ恩給法ノ改正ニ際シテ、此點ヲ考慮シ得ナカッタコトモ亦已ムヲ得ナイト思ヒマス

ソコデ私ハ之ニ關聯スル所ノ政府ノ御方針ニ付テ茲ニ御尋シテ見タイト思ヒマス、ソレハ兵役義務者及癈兵待遇審議會ニ此屯田兵ノ恩給ニ關スル請願ガ付議セラレマシテ、決定答申ヲ得ラレテ居リマス、其答申ニ依リマス「屯田兵ノ恩給ニ關スル請願中大正十二年現行法施行ニ伴ヒ同年以前ノ期間ニ對スル恩給週及支給ノ件ハ認容スル限ニ在ラズト雖モ、屯田兵ノ豫備役期間ヲ恩給年ニ通算ノ件、現役服務期間ニ應ズル一時恩給支給ノ件、前戸主ノ服役期間ヲ恩給年ニ通算ノ件ハ、共ニ屯田兵役義務ノ特殊性ニ鑑ミ同情スベキモノアリト認メラル、ヲ以テ、相當ノ一時金ヲ支給シ、之ヲ以テ屯田兵ノ恩給問題ニ對スル最後ノ解決ト爲スコト（處要經費一時金約百三十萬圓ノ見込ナリ）斯様ニ決定答申セラレテ居リマス、此答申ガ政府ニ於テ御實行ニナルト云フコトニナリマス、吾々ハ此屯田兵ノ恩給問題ニ付テモ考ヘ直シテ宜イト思ヒマス、併

シ今政府ニ於テ吾々ノ主張スルガ如キ、即チ豫備役期間ヲ恩給年ニ通算スベキ根據トナルベキモノヲ認メナイ、即チソレ等ノ文書ニ依ッテハソレ等ノ事實モ認メ得ナイト云フコトデアレバ、中々此問題ハ解決出來マセヌカラ、此癈兵待遇審議會ニ於テ決定セラレタ事柄ヲ實行スルコトニ依ッテ、此問題ノ最後の解決ヲスルコト云フコトガ、或ハ賢明ナル策デハナイカト思フ、所ガ此審議會ニ於テ決定セラレテ以來既ニ四年ヲ經過致シテ居リマス、昭和五年十二月十七日ニ最終總會ガ開カレ、サウシテ審議會ノ決定ガ出來テ居ルノデアリマスルガ、爾來毎年陸軍省ニ於テハ此問題解決ノ爲ニ相當豫算ヲ御要求ニナッテ居ルガ、大藏省ニ於テ之ヲ容レラレナイ爲ニ、今日マデ尙ホ解決ヲ見ナイデ居ル、是ガ解決セラレナイカラシテ、一方屯田兵達ハ恩給ノ一路ニ向ッテ進ンデ居ル、請願シテ參ッテ居ル、早ク此問題ガ解決ヲシテ居ルナラバ——癈兵待遇ノ審議會ニ於テ決定シテ居ル通りニ此問題ガ解決シテ居ルナラバ、屯田兵達ハ恩給ノ問題ヲ諦メテ此請願ハ最早解決サレテ居ッタラウト思フ、今日ニ於テモ此一時金ノ問題ガ實行セラレマスルナラバ、恩給問題ハ斷念ヲスルデアラウ

ト思フ、所行ハレル如クニシテ中々行ハレナイ、私ハ此實行ニ付テ陸軍當局ガ毎年少ナカラヌ御努力ヲ下サツテ居ルコトハ十分之ヲ認メ、深ク感謝ヲ致シテ居ルノデアリマスルガ、大藏當局ノ御考ガ或ハ此事實ノ真相ト云フモノニ徹シテ居ラレヌ爲ニ、此問題ヲ極メテ輕ク扱ツテ居ラレルコトガ此一時金ノ問題ノ容易ニ解決ヲシナイ所以デハナイカト思フノデアリマス、先般モ豫算分科會ニ於テ此問題ニ付テ委員ノ質問ノアリマシタ際ニ、大藏當局ノ御答辯即チ主計局長ノ御答辯ヲ速記録ニ依ッテ拜見致シタノデアリマスルガ、餘程主計局長ハ此問題ニ付テ考ヘ違ヒヲシテ居ラレルノデハナイカト思フ節ガアルカラ、先般來私ハ他ノ委員會ニ於テ其錯誤デアル所以ヲ御尋ヲ致シテ居ルノデアリマスルケレドモ、今猶ホ御答辯ヲ得テ居ラヌノデアリマス、故ニ此屯田兵ノ恩給問題ニ付テ此委員會デ或ハ法律的ニ如何ニ取扱フカト云フコトヲドウシテモ解決ヲシタイ、恩給法トシテ此請願ヲ取入レルコトガ出來ナケレバ、癡兵待遇審議會ニ於テ決定シタ通りニスベキモノデアルト云フコトニスルカ、何レニ致シマシテモ斯様ナ政府ガ恩給法ノ改正ノ提案ヲ爲サレタ場合ニ於テ此問題ハ十分研究シ盡

シ、方針ヲ決定シテ置クノ必要ガアルト思フノデアリマスガ、事柄ハ財政ニ關係スルノデアリ、殊ニ一時金支給ノ問題ニ付テハ大藏當局ガ速記録ニ依リマスルト、考ヘ違ヒヲシテ居ラレルノデハナイカト思フノデアリマスカラ、私ハ其一點ニ付テ此委員會ニ大藏省ノ主計局長ノ御出席ヲ求メテ、ソレ等ノ點ヲ御尋ヲ致シマシテ、此屯田兵ニ關スル問題ノ質問ヲ打切りタイト思ヒマスカラ、此點ヲ留保致シマシテ後ノ機會ニ讓リタイノデアリマス、委員長ニ於テ然ルベク御計ヒヲ願ヒマス

○津崎委員長 承知シマシタ、政府委員カラ今ノ事ニ付テハ御答ガナイヤウデス——尙ホ江藤委員カラモ大藏當局ニ關スル御質問ガアルト云フ御通告デアリマス、今ノ林委員ノ問題ハ大藏省主計局長ノ御出席ヲ今日求メルコトガ出來マスレバ今日、今日出來ナケレバ後日ニ致シマシテ、其時ニ此問題ハ御質問ヲ願ヒタイト思ヒマス、今大藏省ノ方ハ交渉致シテ見マスガ、江藤君マダ一昨日ノ御質問ヲ繼續ノ形デアリマスカ

○江藤委員 喜多君ガ其前ニ質問ガアルサウデアリマスカラ……

○喜多委員 一昨日同僚江藤君ヨリノ要求ニ依リマシテ、今日茲ニ政府當局ヨリ公務

員別各種恩給及扶助料ノ調書ヲ頂戴致シマシテ、拜見致シタノデアリマスガ、此表ニ付テ御尋シテ見タイト考ヘマスルノハ、文官ニ對スル新規裁定ト致シマシテ、昭和七年ニ六千五百六十人、此表ニ依リマスト昭和元年ヨリ七年マデ掲載サレテ居リマスガ、大體三千人、四千人ト云フ所デアッタニ拘ラズ、昭和七年ニナリマシテ、六千五百六十人ノ多數ノ新規裁定ニナリマシタ原因ハ何處ニアルカト云フコトヲ第一點ニ御伺致シタイノデアリマス、第二點ハ陸軍軍人ノ新規裁定ト、ソレカラ權利消滅トヲ比較致シマスルト、新規裁定ト權利消滅ト略、同ジャウナ數字ガ掲載サレテ居ルニ拘ラズ、海軍軍人ノ方ヲ見マスルト消滅人員ニ對シテ新規裁定ガ著シク數ニ於テ大キイト云フノハ是亦何カ據リ所ガアルコト、存ジマスカ、此二點ヲ先ヅ御質問申上ゲマシテ、續イテ更ニ御伺シタイト思ヒマス

○樋貝政府委員 只今御尋ノ文官ニ付キマシテ昭和七年ノ新規裁定ノ人數ノ非常ニ殖エマシタノハ、行政整理ガ主ナル原因ニナツテ居リマス、ソレカラ陸軍々人ニ付キマシテ新規裁定ト權利消滅トガ略、同ジャウナ狀態ニナツテ居リマスノハ、是ハ古イ時ノ公務傷病ニ依リ受ケタル恩給ガ割合ニ近年

多ク消滅シテ參リマス關係デ、同ジャウナ數ニナツテ居ルノデアリマス、海軍ノ方ニハ下士ノ所ガ今一、二年後ニハズツト減ルダラウト思ヒマスガ、下士ノ所ガ新規裁定ノ方ガ割ニ殖エテ居リマス、其原因ハ恩給局ト致シマシテ實ハ統計ヲ取りマセヌノデ、更メテ取りマスレバ分リマスガ、統計ハ海軍ノ方カラ何カ出テ居リマスカラ、ソチラノ方カラ御答致シマス

○寺島政府委員 海軍ノ方ニ於キマシテ權利消滅ノ者ガ新規裁定ノ者ヨリ著シク少イト云フ意味ノ御質問デアリマシタカ

○喜多委員 陸軍ト比較シテ……陸軍ハ略、同數デ行ツテ居ルガ、海軍ダケハ權利消滅ト新規裁定ノ數ガ非常ニ違フノデ……

○寺島政府委員 ソレハ今日權利消滅スル人ハズツト前ニ服務シタ人デアリマス、其當時ノ海軍力ト云フモノガ今日ト比ベマシテ著シク小サカッタ、隨テ海軍ニ從事シテ居ル海軍々人ノ數ト云フモノガ今日ヨリ著シク少イ、詰リ日清戰爭時分ノヤウナズツト少サイ海軍力デゴザイマシタノデ、ソレデ其差ガ此比較ニ現レテ來タノデアリマス

○喜多委員 更ニ御伺シタイト思ヒマスノハ、此法ニ依リマスルト、文官ニ對シマシテ、權利消滅ノ方カラ先ニ見マスルト、昭

和元年ヨリ昭和七年マデハ一年二千人ノ權利消滅デアルニ拘ラズ、新規裁定ハ三四千人、殊ニ昭和七年ニ於テハ六千五百六十人ト云フヤウナ多數ノ新規裁定ガ行ハレテ居ル、所ガ陸軍々人ノ方ヲ見マスルト、權利消滅ト新規裁定ト云フモノガ略、同數ニ相成ッテ居ル、又海軍々人ニ付テ見マシテモ、海軍ガ擴張サレテ居ル結果陸軍トハ同様デハゴザイマセヌケレドモ、大體毎年同ジヤウナ新規裁定ニ相成ッテ居ル、獨リ文官ノミガ非常ニ新規裁定ガ多イ、消滅者ト比較シテ聞キガ大キイ、是ハ私ハ恩給ノ上カラ見マシテ文官ノ任免黜陟ニ非常ニ禍根ガ存在シテ居ルト思フ、是ハ先日政府當局ニ御質問申上ガ趣旨ガ此表ニ於テ明ニ現レテ居ルモノト私ハ解釋致スノデアアル、私ノ申シマシタノハ簡單ニ言フト、政府當局ハ恩給者ヲ濫造致シテ居ルト云フ、此事實ガ表ニ於テ明ニ證明サレテ居ルモノト思フ、軍人ニ對シマシテハ自ラ其處ニ文官ト異タル制度ガ存在致シテ居リマシテ、理想ニ近イ任免或ハ黜陟ガ行ハレテ居ルノガ此表ニ現レテ居ルト私ハ信ズルノデアリマス、隨テ恩給局ト致シマシテハ、或ハ恩給額ガ逐年殖エテ行クコトガ困ルカラ、之ヲ財政ノ上カラ鑑ミテ、或ハ十五年ヲ十七年ニ延バスト云

フヤウナコトヲナサル必要ガアルカモ知レヌガ、政府當局ハ一方ニ於テ此精神ト丸ッキリ矛盾シタ恩給者濫造ヲ盛ニ毎日ヤリツツアル、之ヲ矯正シナイデ以テ、單ニ恩給者ヲ冷遇スルヤウナ傾ノアル此改正ヲ御遣リニナルト云フコトハ、非常ナ政府當局ノ矛盾ナリト私ハ信ズル、果シテ恩給局長ハ今日ノ狀態ニ於キマシテ、恩給ハモット薄クシテ宜シイト云フ確信ヲ御持チニナッテヤッテ居ルノカ、私ハ恐クハ優遇シナケレバナラヌ必要ハ御認メニナッテ居ルノダラウト思フ、唯財政ノ上カラ見マシテ是デハ困ル、世間デハ恩給亡國ト云フヤウナコトモ、或ル一部ノ人ハ言ウテ居リマスガ、私ノ考カラ言ヘバ是ハ俗論デアリマシテ、俗耳ニ入リ易イ議論デアアルカモ知ラヌケレドモ、政府當局ガ斯ウ云フ俗論ニ聽クト云フヤウナコトハ了解ガ出來ナイ、今日政府ハ官吏トシテ優秀ナル人材ヲ得ツ、アル、而シテ恩給ハ之ヲ長ク延バシテモ宜シイ、或ハ冷遇シテモ差支ナイト云フ御見解デアアルカドウカ、恐ラク私ハサウ云フ御考ハ御持ニナッテ居ラヌト思フ、殊ニ生活ノ向上致シテ居リマスル今日、長イ間國家ニ御奉公申上ゲテ、老後ニ於テ生活安定ノ保障ヲ得ラレルト云フコトハ當然ノ結果デアアル、私ハソ

レダケノ保障ヲシテヤルコトハ御認メニナルト信ズル、今ノ官吏ハ決シテ官尊民卑ト云フヤウナ昔ノ頭ヲ持ッテ居ル人ハ私ハ少イダラウト思フ、幾ラ待遇ガ薄クテモ官吏トナッテ居レバ威張レルノダト云フヤウナ、サウ云フ舊イ頭ノ人ハ私ハナイダラウト思フ、官界ニ於テ御奉公申上ゲル者ハ、ソコニ一定ノ信念ガアッテ國家ノ爲ニ御奉公申上ゲル、サウ云フドチラカト云フト近頃國民思想ノ動搖スル際ニ、僅カナ、健實ナル思想ヲ持ッタル方ガ官界ニ於テ或ハ甘ンジテ居ラレルノデアラウト思フ、併シ生活ノ安定ガ得ラレナイト云フコトニナレバ、是ハ考慮スル人ガ随分アルダラウト思フ、隨テ官吏トシテ採用スル上ニ今後優秀ナル人材ヲ得ルコトガ私ハムヅカシクナルデアラウト思フ、斯ウ云フ見地カラ私ハ此恩給制度ノ改正サレル、寧ロ好遇ヲサレルト云フナラバ結構デゴザイマスガ、恩給亡國ト云フヤウナ、洵ニ俗耳ニ入り易イ議論ニ共鳴サレルヤウナ斯ウ云フ改正ニハ、私個人トシテハ絶對ニ反對デアアル、今日ノ官吏ノ中ニモ随分官紀ノ上ニ於テ赦スベカラザル者ガ出デ參ッテ居ル、或ル官吏ノ如キハ出張スルト、其調査ニ行ッタ事件ニ付テノ地方的響應ヲ受ケナケレバ歸ラナイ、斯ウ云フ事

ニ付テハ何等毫末モ憂ヘテ居ラレナイノデアアルカドウカ、之ヲ要スルニ官吏ノ物質的待遇ト云フモノガ不足デアルカラ、自ラサウ云フ御奉公心ノ上ニ於テ知ラズ識ラズ缺陷ガ生ジテ參ッタモノト私ハ思フ、一例ヲ言ヒマス、自分ノ事ニ關シテ申上ゲルノハ洵ニ他ノ委員諸君ニモ御迷惑ト存ジマスケレドモ、私ガ樺太長官ヲ辭メマシタ際ニ、後ノ長官ハ私が連レテ行ッタ人間トカ祕書ニ屬スル人間ヲ皆職ッタ、是ハ高等官バカリデナク、判任官事務員マデモ職ッタ、私ハサウ云フヤリ方ヲ曾テシタコトガナイ爲ニ、後任者ニ異議ヲ申込ダ所ガ、自分ガ辭メルトキハ又皆罷メサセラレルノダカラ、君モ辛抱シ給ヘ、斯ウ言フ、是ハ恩給ニ直チニ關係ヲ持ッタ問題デハアリマセヌデシタガ、時ノ祕書課長ノ如キハ、大學ヲ出マシテ、文官試験ヲ通ッテ五年位經ッデ居ル、其祕書課長マデ職ッタ、其人ハ非常ニ憤慨致シマシテ、辯護士ノ試験ヲ受ケテ、今辯護士ヲシテ居ル、官吏ナント云フモノニハナルモノデナイト、非常ニ憤慨致シタノデアリマシテ、今日ノ上司ガ部下ヲ使フ上ニ於キマシテ、情實因縁ガ行ハレル、サウシテ恩給ニ達シテ居ル者ナラ如何ニ有能ナル者デモ恩給ニ達シテ居ルカラト云フノデ罷メサ

セル、サウシテ自分ノ情實ノ者ヲ入レル、

是ハ極ク小サイ例デアリマスガ、恐ラク斯
ウ云フ式ニ大キナ所ニ於テモ振舞ハレテ居
ルコト、思フ、即チ恩給者ノ濫造ヲ一方ニ
於テナシツ、アル、其處ニ大ナル禍根ガ存在

シテ居ル、是ハ先日御質問申上ゲタ趣旨デ
アリマスガ、此點ニ付テ御考慮ガナクシテ、
而モ此改正ガ軍人ノミナラズ其他ノ官吏公
吏ニ對シテ厚遇ヲナサルト云フコトナラバ
異存アリマセヌガ、十五年ヲ十七年ニ延バ
ストカ、或ハ他ノ權衡上恩給ヲヤラナケレ
バナラス者ニヤレナイ、斯ウ云フヤウナ改
正ノ仕方ト云フモノハ、非常ニ政府自體ノ
矛盾ナリト私ハ考ヘル、恩給局カラ御覽ニ
ナレバ之ニ相當ノ御議論モアリマセウガ、
此精神ニ副フベク各省ニ於テハ官吏ハヤッ
テ居ラナイ、先ヅ此根本ノ源泉ヲ清メ、サ
ウシテ恩給改正ニ移レバ、私ハ斯ノ如キ官
吏ヲ待遇スルヨリハ、厚遇スル案ガ立チ得
ルト信ズルノデアリマス、先日申上ゲマシ
タ趣旨ト同様デアリマスガ、其際ハ内閣書
記官長トモ御相談アッテ、サウ云フ點ニ付テ
御考慮ヲ拂ハレタイ、斯ウ云フコトヲ申上
ゲタノデアリマスガ、其點ニ付テ御考慮ヲ
御拂ヒニナツタノデアルカ、其點ハ除外致シ
テ、唯恩給法ノ改正ヲナサラウト云フ御考

デアルカ、伺ッテ置キタイ

○樋貝政府委員 只今御尋ノヤウナ事情ニ

付キマシテ、無論政府デモ其弊害ナキコト
ヲ希望スルコトハ申スマデモナイコトデア
リマスガ、所詮ハ分配ノ問題デゴザイマセ
ウシ、今日ノ我國ノ財政ノ全體カラ顧ミマ
シテ、恩給ノ爲ニ支出スル額ト云フモノヲ
考合セテ見マスレバ、決シテ是ハ私ハ少ク
ナイト考ヘル、先日モ此處デ英米ノコトヲ
申上ゲマシタガ、外國ナドニ於キマシテモ
恩給デ苦シンダ時代ガアル、又ソレニ對シ
テ減額ヲシテ居ルヤウナ時モアリマス、又
酷イノニナリマス、恩給ヲ全廢シタヤウ
ナ——是ハ非常ニ古イ例デアリマスガ、恩
給ガ著シク増シテ來ルト云フ譯デ、英國ニ
於キマシテ、全廢シタヤウナ時代モアリマ
ス、是ハ只今申シマシタヤウニ非常ニ古イ
時代デアリマスカラ、今日ノ外國ノ例トシ
テ申上ゲル程ノ價值ハアリマセヌ、サウ云
フヤウナ譯デアリマシテ、全體カラ考ヘマ
シテ之ニ考慮ヲ加ヘル、一人々々ニ付キマ
シテ考ヘマシタナラバ、今ノ御説ノヤウナ
コトモ無論考ヘラレルト思ヒマスシ、今度
ノ改正ニ於キマシテモ、各個人ニ付テハ十
分デナイト云フコトハ、重ネ／＼申上ゲタ
ヤウナ譯デアリマスケレドモ、全體トシテ、

國家或ハ地方自治團體ノ負擔ヲ考ヘテ見レ

バ少シク重キニ堪ヘナイト云フコトモ考ヘ
ラレマスガ、重キニ堪ヘナイ所ニソレガ累
増シテ行ッテ、果シテドノ邊デ止マルカト云
フコトニ付キマシテモ、第一回ニ申上ゲマ
シタヤウナ合デ、今確定ノ金額ハ考ヘラ
レマセヌ、而シテ年々ノ増加ハ急角度ヲ
取ッテ參ッテ居ル、之ニ對シテ何カ少クトモ
緩和スル方法ヲ考ヘナケレバナラス、ソレ
ガ自然カト考ヘマス、サウ云フヤウナ事情
デ、只今喜多委員ノ御話ニナリマシタヤウ
ナコトガ部分的ニハアルカト存ゼラレマス
ガ、無論政府ト致シマシテモ、サウ云フ人
事的方面ニハ注意致ス積リデアリマス、ソ
レガ不必要ト云フ譯デハアリマセヌ、ソ
レガ主ナル理由トナッテ居ルカモ知レマセ
ヌケレドモ、ソレト離レマシテモ、尙ホ斯
ウ云フコトヲ考ヘテ行カナケレバナラスノ
デハナイカト云フコトハ、第一回ノ時ノ御
質問ニ對シテ御答シテ置イタノデアリマス
○喜多委員 私トハ所見ヲ異ニシテ居リマ
スガ、是レ以上御尋致シマセヌ
○津崎委員長 林君、大藏省主計局長ハ他
ノ委員會ノ關係デ今日ハ來ラレヌサウデス
カラ、又此次ノ機會ニ出席ヲ求メマシテ御
質疑ナサルコトニ致シタイト思ヒマス

○林委員 承知シマシタ

○津崎委員長 尙ホ今日ハ四時頃マデ致シ

タイト思ヒマスノデ、後二十分バカリデ濟
ム程度デ山柁君御質疑願ヒマス

○山柁委員 只今喜多委員カラ恩給ヲ増額

スベント云フ御意見ヲ伺ッタノデアリマス
ガ、私共ト所見ヲ異ニシテ居ルノデアリマ
ス、ソコデ伺ヒタイコトハ、曾テ本院ニ議
席ヲ有ッテ居ラレタ松下ト云フ醫學博士ガ
アリマスガ、此人ガ、年金トシテノ恩給ヲ
全廢シテ、退職ノ時ニ一時ニ支給スル、サ
ウスレバ其金ヲ以テ相當ナ他ノ仕事ヲスル
コトガ出來ル、サウスレバ寧ロ恩給金額ヨ
リ少クテモ有效ニ働ケルノデヤナイカト云
フ議論ヲサレタコトガアッタト記憶スルノ
デアリマス、現在退職スル場合ニ一時賜金
ヲ給與シテ居ルヤウデアリマス、是ハ各省
ニ依ッテ非常ニ差異ガアル、鐵道省ナドハ
非常ニ莫大ナ一時賜金ヲ貰ッテ居ル、局長級
ニナリマス、何萬圓ト云フヤウナ一時退
職賜金ヲ貰フ、他ノ省ニナルトサウデナイ、
ソコデ恩給法ハ退職後ノ生活問題ヲ考慮ニ
入レテ考ヘタコトデ、一時金トスルカ、年
金トスルカト云フコトハ次ノ問題デアル、
故ニ伺ヒタイコトハ、恩給局ニ於テ各省ノ
退職賜金ノ問題、サウシテ恩給年金トノ問

題ヲ兩方照合セテ——早ク死ヌ人モアリマ
スシ、年金ヲ少クシテ一時金ヲ相當ニ多額ニ
出スコトニシテ、何カソコニ比較的經濟的ナ
案ガアリハシナイカトモ考ヘラレマスガ、サ
ウ云フ事ヲ御考ヘニナツタコトガアリマスカ
○**糧員政府委員** 恩給ヲ一時金ニスルカ年
金ニスルカト云フコトニ付キマシテハ、實
ハ大正十二年ニ現行恩給法ヲ制定致シマス
當時ニ於テモ餘程考ヘマシタノデ、私個人
ト致シマシテハソレヨリモ前カラ考ヘテ
居ッタコトガアリマス、ト申シマスルノハ、
何時モ恩給法ヲ改正シヨウト思ヒマシテ
モ、舊受恩給者ニ對スル遡及ト云フ問題ガ
痛ニナリマシテ、將來ニ向ッテ適當ナル改
正ヲシヨウト思フ場合ニモ、既ニ過去ニ恩
給ヲ貰ッテ居ル人ヲソレヲドウスルカト云
フコトノ惱ミノ爲ニ、手ガ著ケラレヌノガ
非常ニ多ウゴザイマス、是ハ恩給法全體ノ
改正ノ場合ノミナラズ、各細部分ニ付テノ
改正ニデモ、常ニ是ニハ悩マサレル譯デ、之
ヲ恩給一時金ニ致シマスルト、サウ云フコ
トハナクシテ、恩給ノ改正ハ時々其時ニ應
ジ得ルヤウナ、實ハ便宜ト申シマセウカ、
適切ト申シマセウカ、サウ云フ規定モスル
コトガ出來マスノデ、其點ハ非常ニ便宜ト
モ考ヘラレマスガ、一面カラ實際ニ付テ考

ヘマスルト、受恩給者、即チ公務員ニ於キ
マシテハ、大體カラ申セバ財産ノ運用ナド
ハ下手ノ方デアル、隨テ一時金ヲ手ニ致シ
マスルト、一二年ニシテ之ヲ無クシテシマ
フノガ事實ナノデアリマス、ソレデ公務員
ノ保護ノ點カラ考ヘテ見ルト、之ヲ一時金
ニスルノハ場合ニ依ッテハドウニモ仇ニナ
ルト云フ傾向ガアル、ソレカラ又一方經濟
能力ヲ相當ニ殘存シテ居ル者ニ於キマシテ
ハ、少額ノ恩給ヲ年々ニ貰ヒマスノデハ資
本ニナラナイ、一時金ナラバ之ヲ適當ニ運
用スル、個人ガ運用スルナラバ、少クトモ
年一割二分位ノ割合ニハ運用シテ參ル、最
小限度ノ場合ヲ考ヘテ見マシテモ、外カラ
借金スルトスルナラバ、一割二分位ノ金ハ
借りテ來ルコト、思フノデスガ、ソレヲ一
時金デ貰ヘレバサウシナクテモ濟ムト云
フヤウナコトガアリマスカラ、消極的運用
ト致シマシテモ、個人ニ運用サセレバ一割
二分位、國家ガ之ヲ持ッテ居ッタスルナラ
バ、年ニ四分トカ、高クトモ五分トカ云フ
ヤウナ金利ヲ考ヘル以上ノコトハ出來ナイ
ト思フ、サウスレバ其金利ノ差額デ國家ノ
財政ガ救ヘルト云フヤウナコトモ實ハ考ヘ
マシタ、即チ年金恩給ヲ一時金ニ換算シテ、
サウシテ之ヲ給スルト云フコトニシテ、過

去ノ受恩給者ニ付テモ之ヲ施シタラドウ
カ、將來ノ受恩給者ニ付テモ斯ウ云フ制度
ニシタラバドウデアラウカト云フヤウナコ
トモ考ヘテ來マシタ、ソレガドウ云フ風ニ
行クカト云フコトヲ研究シタモノモ實ハ大
分アリマス、今日實ハ此處ニ持ッテ來マセヌ
デシタガ、丁度包ニシマシテモ今日此處ニ
持ッテ參リマシタ書類ノ倍位ニ計算ガナッテ
居ルノデスガ、サウヤッタ結果ガ、今申シマ
シタヤウナ事情、殊ニ最近ニ於キマシテ、
軍人ノ遺族ナドニ付テマザ——ト見セ付ケ
ラレマシタノデ、餘程ソレニ付テハ躊躇致
シテ居ルヤウナ譯デアリマス、之ニ代ルベ
キ、例ヘバ恩給ニ付テ前拂其他ノ方法ニ
依ッテ一種ノ金融ヲ付ケテヤルト云フヤウ
ナ、三年分或ハ五年分ト云フヤウナ金融ヲ
付ケテヤルヤウニスレバ、一時金給與ニ代
ル方法トモ考ヘラレルシ、年金ノ良イ所ヲ
モ兼ネ備ヘルコトガ出來ルト云フノデ、其
點モ目下考慮中デアリマス、色々考ヘテ居
リマスガ、マダ一時金ニ斷行スル迄ノ手續
ニナッテ居リマセヌ

リマシタ、ソレカラ準教育職員ノ通算關係
ガ活キテ參ッタノデアリマス、ソコデ伺ヒ
タイノハ、附則ニ依リマス、附則ノ第十
八條ノ方ニ「仍從前ノ例ニ依ル」ト云フノ
デ、之ヲ受ケザリシ者ニ付テハ適用セザル
コトニシテアルノデアリマス、即チ教育職
員トシテ十四年勤續致シマス、サウシテ優
秀ナルガ故ニ縣視學ニ拔擢セラレマス、サ
ウシテ三十四年勤續シマス、十四年マデ勤
續シマス、サウシテ昨年行政整理デ退職シ
タ、斯ウ云フ教育職員トシテモ文官トシテ
モ、何方モ恩給ニ達シナイ、斯ウ云フ者ガ
アルドラウ、無論昨明文官ノ方ハ十四年分
ダケハ一時恩給ヲ貰ッテ居ルノデアリマセ
ウ、ケレドモ過去ノ十四年分ガ駄目ニナッ
テシマフ、ソレヲ活カス爲ニ、茲ニ九十九
條ヲ削除セラレタノデアリマスガ、サウ云
フモノヲ過去ニ遡及セザルト云フ恩給法ノ
鐵則ガアッテイケナイノデスカ、何トカソレ
ヲ救済ノ途ハナイモノデセウカ
○**糧員政府委員** 今御舉ゲニナツタ例ヲ直
チニ取りマシテハ甚ダ恐縮カハ知リマセヌ
ガ、其例ニ依リマス、學校職員カラ視學ニ
ナリマシタヤウナ者ノ年數通算ニ關シマシ
テ、御承知ノ通り從來特別規定ガアリマシ
タガ、今度ハソレガ廢止サレマスガ、十八條

ノ規定ハ、過去ニ於テ一週恩給ヲ貰フテ、サ
ウシテ又大正十二年後ニズト職員トシテ
出デ居リマシテ、差額停止ヲ受ケタ者ノ間
ノ事柄ダケデゴザイマス、サウデナイ者ハ

十八條ハ觸レテ居リマセヌ、ソレカラ十八
條ノ後段ノ方ハ、新ニ十七條ヲ認メテ、將來
ニ向ッテモ尙ホ差額停止デ行ク、其期間ノ普
通差額ヲ考ヘタダケデス、是ハ既ニ今日マ
デニ罷メタ同様ノ事情ノ者モアリマスガ、

サウ云フヤウナ人モ遡及シテ通算シテヤル
コトモ困リマスルシ、ソレトノ釣合モアリ
マスシ、ソレカラモウ一ツニハ、サウ云フ

利益ヲ一方ニ於テ得テ、サウシテ他方ニ通
算ヲサレルト云フコトガ甚ダ困リマスノ
ハ、恩給法デハ通算關係ト停止トハ、何時

モ表裏シテ居リマス、通算ナケレバ停止ナ
シ、停止ナケレバ通算ナシト云フ風ニ、何
時モ是ガ表裏シテ居リマス、此場合ニハ一

部分ノ停止、或ハ全然停止ニナラヌ場合モ
アリマス、ケレドモ五十八條ニ規定スルヤ
ウナ全額停止ト云フヤウナ不利益ヲ蒙ラナ

イデ、是ハ謂ハ、過去ノ規定デ、全ク其利
益ヲ得テ來テ居ル部分ダケデアリマス、其
部分ニ付テハ、利益ノ方ダケハ舊法通りノ

モノヲ享受シテ置イテ、サウシテ又今度ノ
新法ニ依ル利益ハ、全クサウ云フヤウナ規

定ノ利益ヲ得ナイ不利益ノモノガ認めラレ
テ居ル、ソレヲ其儘ニ利益ヲ享受サセル、
兩方得サセルノハ少シ不當ト思ヒマス

○山柙委員 今ノ例ハ分リマシタガ、若シ
今ノヤウナ差額停止ノ問題デナシニ、十四
年デモ、教育文官ハ繼續スルトシテ、教育

文官デナイ他ノ文官ニナツタ、斯ウ云フ場合
ニ退職シテシマツテ居ル、得ラレナイ、是ガ
九十九條デ削除ニナツテ居ル、モウ一年居リ

マシタラ得ラレル、サウ云フ者ハ得ルコト
ガ出來マセヌカドウデスカ

○樋貝政府委員 ソレハ今ノ十八條ノ場合
デハナイノデアリマス、サウ云フ風ナ文官
ガ出マシタ場合ニハ、從來ノ規定ニ依ッテ

モ其差額停止ノ利益ヲ受ケナイ、全部停止
サレテシマフ——イヤ違ヒマシタ、全然停
止サレマセヌ、通算關係ガナイカラ、サウ

云フモノデアルナラバ停止ヲサレテ居ラナ
カッタ、通算サレルモノダケ停止サレル、ソ
レガ通算ヲ全然サレヌモノニ付テハ、停止

サレナイノデアリマス、ソレハ更ニ一層利
益ヲ得テ居ルノデアリマスカラ、ソレヲ通
算スルノハ困ルト云フコトニナリマス、吳

レナイモノナラバ後ニ規定ガアリマスガ、
十二年前後ニ互リマシテ、切レズニズツト
繋ッテ居ルノハ、九十條ノ第一項ノ規定ニ但

書ガアリマスガ、其但書ノ規定デ通算サレ
ルコトニナツテ居リマス、切レタノヤ、喰違ッ
タノハ、是ハ通算サレマセヌ、サウ云フ事情

デ停止ニ依テ全然不利益ヲ蒙ラナイ、又差
額停止ノ利益ガアルノハ、ソレヲ現ニ受ケ
タ者ハ通算サレナイ、ソレデナイト公平ニナ

リマセヌ、サウ云フコトニナツテ居リマス
○山柙委員 先日御尋致シマシタノデアリ
マスガ、五十九條ノ二デス、基礎金額ノ間

題デアリマス、小學校ノ教員ハ田舎ノ事情
ニ依テ非常ニ低イ場合ガアル、故ニ退職ノ
際増俸シテ恩給ダケナリト多ク受ケサセタ

イ、斯ウ云フ希望ガアルノデアリマス、ソ
レヲ充タスコトガ出來ナクナツテ居ルノデ
ス、但シ一級ダケハ何トカ工夫ガ付クヤウ

デアリマスガ、ソレ以上ハ工夫ガ付カナイ
コトニナツテ居リマス、五十九條ノ二ニ「左
ノ特例ニ從フ」ト一ニトアリマスガ、モウ

一ツ持ッテ行ッテ特ニ恩給局ト打合セテ、サ
ウシテ事情ヲ相當ト認ムル場合ニハ、二級
三級モ之ヲ認メルト云フヤウナ特例ヲ、地

方ダケデ勝手ニヤリマス云フト困リマス
ガ、サウ云フ場合ニ特ニ恩給局ト協議ノ上、
其事情如何ヲ斟酌シテ見テ差支ナイ場合

ニ、之ヲ認メルト云フヤウナ特例ヲ、一ツ
設クル譯ニ行キマスマイカ

○樋貝政府委員 大變恩給局ヲ御信任下サ
イマシテ有難フゴザイマスガ、政府部内ニ
於キマシテモ、是ハ内部ノコトヲ申上ゲテ

甚ダ恐入リマスガ、ソレ程信用シテ呉レマ
セヌノデゴザイマシテ、恩給法ノ改正ヲ
御覽願ヘバ分リマスガ、恩給局長ノ裁量ヲ

容レルト云フヤウナコトハ許サレマセヌノ
デ、全部ガ冷クト云フト語弊ガアルカモ知
レマセヌガ、一律ニ法デ殆ド裁量ノ餘地ガ

ナイヤウナ工合ニ、一切ノ規則ガ出來テ居
リマス、ソレ等ノ點モ彈力アルヤウニ行ケ
バ宜シイノデゴザイマスケレドモ、サウ云

フコトハヤハリ弊害ヲ生ズル、時ニ依テ二三
ニスル虞ガアルカラト云フノデ、ドウモサウ
云フコトガ政府部内トシテモ餘リ許サレマ

セヌ、結局マア斯ウ云フ風ニ彈力性ナク、劃
一的ニ取扱フト云フコトニナツテ參リマス
○山柙委員 教育職員ノ中デ、小學校ノ教

員ハ地方費負擔デアリマス、隨テ地方長官
ガ辭令ヲ出ス、而シテ自ラ恩給ヲ支給スル、
斯ウ云フコトニナルノデアリマスカラ、國

ノ財政トハ關係ガナイノデアリマス、斯ウ
ナリマスルト、地方長官自ラ考ヘテサウス
ルトスルナラバ、ソコニ恩給局ガ今信用ガ

ナイト云フコトデアリマスガ、地方長官ガ
特ニ必要ト認ムル場合ニハ、ソレヲシテ差

支ナイト云フコトヲ、自ラ認メテ自ラ支拂
フモノヲ自ラ決定スルノデアリマスカラ、
ソレヲ態々國家ガ其地方廳ニ向ッテ、束縛ス
ル必要ヲ認メナイト思ヒマスガ、サウ云フ
便法ヲ設クル譯ニ行キマセヌカ

○**樞員政府委員** 是ハ恩給局ガ不信用ト云
フ風ニ只今謙遜的ニ申上ゲマシタガ、實ハ恩
給局ハマダ宜イカモ知リマセヌケレドモ、
地方廳デハ更ニ區々ニナラウト云フヤウナ
意見ガ、實ハ多イノデアリマス、恩給局デ
ヤルナラバ、或ル場合ニハ裁量ヲ許シテモ
宜イト云フコトハ、今ノ金額ノコトデハゴ
ザイマセヌケレドモ、他ノ事項デアリマス
ケレドモ、サウ云フヤウナコトモアッデ、此
改正案ニモ今度現ハレナカタモノモアリ
マス、ソレガ更ニ一層ノコトニナリハシナ
イカ、具體的ニサウ云フコトガ、政府ノ方
デ問題ニナッタ譯デハアリマセヌケレドモ、
モット／＼金額ニハ影響ノナイヤウナ事柄
デモ、サウ云フ意嚮ガ寧ロ強イヤウナ状態
デアリマスカラ、此程度ノ事柄デアルナラ
バ、一層強イ理由デ、ソレハイケナイト云
フ結論ニナルト考ヘマス

○**山柙委員** 併シ地方々々デソレニ差等ガ
アッテモ、現在小學校教員ノ俸給ノ或モノ
ハ、地方々々ニ依ッテ大ナル差等ガアル、各

府縣ノ平均給ヲ見マスルト非常ナ差等ガア
ル、元來全國ニ差等ガアルノガ當然デアル、而
モ支拂フノハ地方廳、道府縣ガ支拂フノデ
アリマスカラ、ソレガ全國的ニ何カ劃一デ
ナケレバナラヌト云フ原則ハ、樹テラレナ
イノデアリマス、差等アッテ然ルベシ、差等
アル所ニ妙味ガアルカラシテ、ソコデ各府
縣ノ支拂ニナッテ居ルノデアリマスカラ、一
寸モ差支ナイヤウニ思ヒマス、此點ハ尙ホ
一應御考置キヲ願ヒタイト思フ、何トカサ
ウ云フ特別ノ場合ヲ優遇スル拔ケ道デモ、
法文上御考ヲ願ッテ置キタイト思フ

ソレカラ第九條其他ニアリマスガ、恩給
停止ノ刑罰六年ヲ二年ニ皆下ゲテアル、六
年ト二年トノ刑ノ量定ヲ決メラレタ其根據
ヲ一ツ御伺致シタイ

○**樞員政府委員** 六年ト申シマスルノハ、
舊刑法ノ重罪ニ該ル譯デアリマス、重罪ノ
刑ガ、量定刑ト致シテ六年ガマア境トナッ
テ居リマス、所ガ御承知ノ通りニ、刑法ハ
三十一年デゴザイマシタカ現行法ニ改正サ
レ、重罪、輕罪ノ刑別ガナクナリマシタ譯
デ、又一方カラ言ヘバ恩給法ガドウデモ、
從來ノ刑罪標準ヲ採ラナケレバナラヌ理由
モアリマセヌ、刑法デハ禁錮以上ノ刑ニ該
ル者ニ付キマシテモ、二年以下ノ者デアリ

マスルナラバ、執行猶豫ノ言渡ヲ爲シテ、
サウシテ反省ヲ求メルト云フヤウナコトニ
モナッテ居リマシテ、此二年ノ認定ガ宜シ
イカ宜シクナイカハ別論ト致シマシテ、大
體ニ於キマシテサウ云フ所ヲ標準ニ採ッテ、
本人ノ改悛ノ情ナドニ依リマシテ、實刑ヲ
科スルヤウニスルカシナイカト云フコトガ
分レルト考ヘル、ソレニ適當ナリト考ヘテ
居ル二年ノ所ヲ標準ニシテ、ソレ以上ナラ
バ失權サシテ了フ、ソレヨリ以下デアアルナ
ラバ失權ヲサセナイヤウニシタ方ガ、今日

ノ刑政ノコトヲ考慮ニ入レマシテ恩給法ヲ
考ヘルコトニナッテ、適當デハナイカト云フ
コトヲ考ヘマシタガ爲ニ、二年ニ致シマシ
タ

○**山柙委員** 是ハ更ニ年限ノ外ニ、罪ノ種
類モ一應御考ニナル必要ガアルノデハナイ
カト考ヘラレル、選舉法ニ於キマシテ八年
限ノミヲ考ヘナイデ、罪ノ性質ニ依ッテ考
ヘテ居ルノデアリマスガ、六年トスレバ色
色ナ差ガアルガ、二年トスレバ大概同ジ様
ニナルカモ知レマセヌ、例ヘバ治安維持法、
治安維持法ハ國家ノ基礎ニ關スル否認ノ刑
罰デ、假ニ一年何箇月ト云フヤウナ場合ニ、
之ヲ他ノモノト同ジニ考ヘルカドウカト云
フヤウナコトハ、吾々ハ考慮ノ餘地ガアル

ノデハナイカ、斯ウ思フノデアリマス、是
モ一ツ又後程ニ御伺スル機會ガアルカモ知
レナイ

ソレカラ多額所得者ノ恩給ノ件デアリマ
スガ、是ハ能ク讀ンデ見マスと斯ウ書イテ
アル、恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額ノ合
計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割デアリマス
カラ、六千五十圓ニナッタラ、超ユル額ノ二
割デアリマスカラ、五十圓ノ二割ダケシカ
引カレナイコトニナルノデスカ、ソレヲ承
リタイ

○**樞員政府委員** 只今ノ御尋ノ通りデアリ
マス

○**山柙委員** サウスルト細カイ計算ニナル
ヤウニ私ハ思フノデアリマスガ、例ヘバ六
千圓ナラ、六千圓以上デアアルナラバ、六千圓
マデ切詰メル、サウシテ其金額ハ恩給額ノ
二割ヲ超ユルコトヲ得ズト云フヤウナコト
デアアルナラバ當然ト考ヘラレマスガ、六千
二十圓ニナッタラ、四圓引クト云フヤウナ、
ドウモ細カイコトデスカ、六千圓ヲ超ユル
金額ハ支拂フ、但シ其停止スル金額ハ恩給
額ノ二割ヲ超ユルコトヲ得ズト、斯ウ云フ
コトニナルノガ本當ノ數字デハナイカト思
フノデアリマスガ、如何デアリマスカ

○**樞員政府委員** 境目ノ極端ナコトヲ擧ゲ

ラレマス、サウ云フコトニナリマスケレドモ、先ヅ六千圓程度ノ收入ハト云フコトヲ頭ニ置キマシテ、ソレ以上デ押ヘテ行キタイト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマスカラ、結局斯ウ云フコトニナリマス、若シ六千圓ヲ超ユル金ナラバ、ソレハ全部停止シテ置ク、但シ恩給ノ二割ヲ超ユルコトヲ得ズト云フコトニナリマス、或所ヘ行キマス、最早所得ノ高ニ比例シマセヌノデアリマス、何時モ所得ガ多クモ其範圍デ、割合ニ少ナクモ同じ最高額ノ二割デ行ク、斯ウ云フコトニナリマス、今ノ額ノ小サイノヲ出シテ來ラレト甚ダオカシイヤウナコトニナリマスケレドモ、サウ云フ所ニ所得高ニ應ジテ、段階ガ付イテ行ク方カラ云ヘバ、矢張斯ウ云フヤウナ建前ニシタ方ガ宜カラウト思ヒマス

○山根委員 私ハ差額ヲ停止シタ時ノ手續ノ側カラ言ッテモ、此金額以上ハ恩給ヲ支拂ハヌ、是ダケノ收入ガアレバ生活上相當ト認メルト云フ觀念ガ、此六千圓ト云フコトデアラウト思ヒマス、故ニ是レ以上ハ認メヌ、但シソレガ非常ナ金額ニナレバ氣ノ毒デアアルカラ、恩給額ノ二割以上ニモ及ブ時ニハ、是ハ少シ餘計ニナッテモ宜カラウト、斯様ニ考ヘテ行ク方ガ、六千圓ト云フコトヲ決メタノニ對シテ、私共常識的ダト思ヒマス、是ハ一ツ何トカシテ、サウ云フヤウニスル工夫ハナイカ、斯ウ云フ所ハ私共出來ルダケ削ッテ、他ノ方ヘ金ヲ廻ハシタイト云フ考ガアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ申上ゲルノデアリマシテ、此點モ御考慮ヲ願ヒタイト思ヒマス

ソレカラ簡單デアリマスカラ、モウ一ツ伺ッテ置キマスガ、此第三十條デス、三十條ノ通算關係ノ「四分ノ三ヲ十分ノ七ニ改ム」トアルノハ、是ハドウ云フ基礎ニ依ルノデアリマスカ

○樋貝政府委員 是ハ近似數ヲ取りマシタ譯デアリマス、現在ノ四分ノ三ト勘定致シマスルモノモ、是ハ實ハ近似數デアリマス、文官ナラ文官ノ在職年限ヲ、軍人ノ在職年限ニ通算致シマス場合ニ、最低年限ニ至ルモノヲ比較致シマス時ニ、十五分ノ十一トスルノガ理論的ニ正確デアリマスガ、十五分ノ十一ト云フヤウナ計算ハ、實際カラ見マスト非常ナ手數ヲ要シマス、十五ト云フ數ガ分母ニナリ、十一ト云フ數ガ分子ニナリマス、非常ニ手數ガ掛カリマス、ソコデ四分ノ三——是モ大雜把ニ四分ノ三ト言ッテ居ルヤウナ譯デアリマス、今度ノ軍人ノ分ト警察官ノ分ト、兩方ヲ一ツニ致シマスルト、此際四分ノ幾ラト云フ計算率ヨリ、十進法デ行ッタ方ガ便利デ、非常ニ手數ガ省ケマス、ソコデ四分ノ三ト殆ド違ハナイ十分ノ七ニシタ譯デアリマス、四分ノ幾ラ幾ラト云フヤウニシテモ宜シウゴザイマスカラ、此際其程度ノ極ク微量ノモノデアリマケレバ宜シイ、斯ウ云フヤウニシタ方ガ非常ニ便利デアリマス、ソレデ斯様ニ致シマシタ

○津崎委員長 一寸申上ゲマスガ、江藤君カラ書類ノ御要求ガアリマスカラ、其御要求ヲ聞イテ置イテ、今日ハ休ミニシマスケレドモ、明日、明後日ハ都合ニ依ッテ休ンデ、一日、木曜日ノ午後一時カラ、此次ハ開キタイト思ヒマス、連日此委員會ハ多數ノ御出席ヲ願ッテ、其間御研究ノ進モナカッタト思ヒマスカラ、サウ致シマス、江藤君ノ御要求ヲ今御願致シマス

○江藤委員 此前要求致シマシタコトニ付キマシテハ、洵ニ有難ウゴザイマシタ、御禮ヲ申上ゲマス、又御面倒ナコトヲ御願ヒシテ恐縮デアリマスケレドモ、此問題ハ非常ニ重要ナ問題ダト思ヒマスガ故ニ、御願ヲ申上ゲタイト思ヒマス、先日御配付ニナリマシタ普通恩給受給者年額別人員表ノ中

デ、最低ノ百圓未満ノ百八十五人ト云フノデアリマスガ、是ノ公務員別ヲ御願ヒシタイト思フノデアリマス、第二點ハ改正案ニ依リマスル第一款症、第二款症、之ニ傷病年金ヲ給セラレマスルガ、之ニ要スル金額ヲ御願ヒシタイトデアリマス、第三點ハ、軍人ノ公傷ニ依ル増加恩給、之ヲ戰傷ニ依ル増加恩給ト同額ニ致シマシタナラバ、是ハドノ位ノ費用ガ要ルデアリマセウカ、此事ニ付キマシテ、是ハ八割ニナッテ居ルノデアリマスルガ、殊ニ私ハ海軍ニ於テ、海軍ノ公傷ハ殆ド戰傷ト同じデアリマスルガ、又陸軍ニ於キマシテモ、戰地ニ於ケル公傷ハ、例ヘバ歩哨ニ立ッテ居ッテ凍傷ニ罹ッテ、是ガ恩給ヲ貰フ、斯ウ云フモノモ殆ド戰傷ト同様ニ思ハレルノデアリマスガ、是ガ公傷ニナッテ居ルモノモアリマス、之ヲ軍人ニ限ッテ、公傷モ戰傷ト同じ額ヲ給スルト云フコトニナリマシタナラバ、ドノ位ノ金ガ要ルデアリマセウカ、其調査ヲ御願ヒ致シタイトデアリマス、尙ホ私共ガ扶助料ヲ増額シ、又恩給ノ階級別ヲ少クシ、尙ホ輕傷者ヨリモ、重傷者ニモツト重クシタイト云フコトニ付テ、案ヲ持ッテ居ルノデアリマス、是ハ申上ゲマスルト非常ニ長クナリマスルノデ、此案ヲ差上ゲマスルカラ、此案ニ依ッ

テノ金額ノ御調査ヲ御願ヒシタイト思ヒマス、最後ニ本改正案ニ依リマスル各條項ニ基キマシテ、何ト申シマスカ、收支デゴザイマス、此條項ニ依ッテ、是ダケ恩給額ガ減ル、其代リソレヲ減ラス爲ニハ、是ダケ金ガ要ルノダト云フコトヲ、各條項ニ就テ恩給額ノ收支ノ關係ヲ御示シ願ヒタイト思フノデアリマス、是ダケ御願シマス

○樋貝政府委員 只今御要求ニナリマシタ江藤サンノ御出シニナリマス案ニ依ル金額ガ、ドノ位ニナルカト云フコトハ、實ハ案ヲ拜見致シマセスト二三日位ニ出來ルカドウカ……

○江藤委員 長ク掛ッテモ結構デゴザイマス

○樋貝政府委員 實ハソレガ出來上ルマデ、委員會ノ方ニ間ニ合フカドウカト思ッテ居リマス

○江藤委員 ソレハ又他ノ方カラ質問ヲ致シマスカラ、後デ申上ゲマス

○樋貝政府委員 ソレカラ最後ノ、今度ノ改正ニ依ッテ、各項目ニ付テドレダケノ金額ガ、ドウ云フ風ニ出テ來ルカト云フ點デゴザイマスルガ、實ハ可ナリ浩瀚ナモノデゴザイマシテ、之ヲ全部寫シテ取りマスト可ナリ……

○江藤委員 ソレデハ尙ホ能ク研究致シマシテ、改メテ御願ヒ致シマス

○津崎委員長 ソレデハ本日ハ是デ散會致シマス

午後四時十一分散會

昭和八年二月二十七日印刷

昭和八年二月二十八日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社印刷所